みんなで作る！

地区防災計画作成マニュアル

まずは、
ここからはじめてみませんか！！

岡　山　県

はじめに

地区防災計画は、自分たちの命と地区を災害から守るため、地区の居住者や事業所の方々が、事前の備えと自発的な行動をみんなで話し合い、共有しておきたい共通ルールや防災活動の内容を紙や冊子にまとめたものです。

甚大な被害が生じた平成30年7月豪雨災害をはじめ、過去の災害からも明らかであるように、発生直後は、行政機関は災害時特有のさまざまな対応に追われ、地区住民一人ひとりの安否確認や避難誘導等まで手が回らないことがあります。

そうしたときに大切になってくるのが「地域の力」です。地区住民が主体となり、落ち着いて適切な行動がとれるよう、日頃から「自助」として災害に対して備えを進めていただくことはもとより、顔の見える関係づくりと「共助」の仕組みにより、誰もが助かる地区になっていただきたいと考えております。

本マニュアルには、令和元年度から令和4年度にかけて、地区防災計画等作成モデル事業を実施し、モデル地区の計画作成の支援を通じて得られた知見やノウハウをまとめています。ぜひ、本書を手に取り参考にしていただきながら、できるところから始めてみましょう。

令和6年
岡山県

地区防災計画の作成に向けて

○地区には、高齢者や障害のある方をはじめ、妊産婦や乳幼児、外国人などさまざまな方が暮らしています。災害時に、誰もが助かる地区になるためには、どのような備えや対策が必要か、みんなで考えてみませんか。

○あいさつや声かけなど、すでに地区で行われていることや、地区で引き継がれている防災に関する書き物が存在する場合もあります。計画は一から作成する必要はありません。日頃の取組を整理してみましょう。

○最初から完璧を目指す必要はありません。計画事項の一式がそろわないと不十分であるというのは誤解です。「小さく始めて大きく育てる」という意識で取り組んでみましょう。

○積み重ねを意識しながら、できるところから少しずつ取り組んでみましょう。話し合いが続くとモチベーションが下がってしまうことがあります。楽しみながら防災について学ぶ工夫をしてみましょう。

○計画作成を行う取組の過程は１つだけでありません。取組の数だけ、それぞれに進め方があります。地区の特性や実情に応じた、ふさわしい進め方を見つけてみてください。

○何から取り組んでよいか分からないときは、「命を守り、そしてつなぐこと」を確実に行えるよう、「避難」に特化したところから始めてみてください。

目　次

第１部　地区防災計画の概要

１　地区防災計画とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

第２部　基礎編　地区防災計画を作ってみよう！

１　地区防災計画の項目例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
２　地区防災計画作成の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
　○Step１　話し合いに参加するメンバー等を決める。・・・・・・・・・・　１２
　○Step２　地区の現状や災害リスクを把握する。・・・・・・・・・・・・・　１５
　　・２－（１）　防災意識を高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
　　・２－（２）　地区の特性を知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
　　・２－（３）　防災まち歩きの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
　　・２－（４）　防災マップの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
　○Step３　地区に必要な防災活動を検討する。・・・・・・・・・・・・・　２９
　○Step４　地区防災計画（素案）を取りまとめる。・・・・・・・・・・　３１
　○Step５　防災訓練を実施する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
　○Step６　取組を振り返り、素案の内容を見直す。・・・・・・・・・・　３３
３　話し合いの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４

［プログラム例］
第１回　地区防災計画について（勉強会の開催）
第２回　防災まち歩きの実施と防災マップの作成
第３回　活動体制の検討
第４回　タイムライン等の検討
第５回　震災時における防災活動の検討
第６回　地区防災計画（素案）の説明

第３部　実践編　初動対応とタイムラインの検討

１　初動対応とタイムラインの検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５４

第４部　地区防災計画の様式と記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６１

第５部　資料編　各種様式と参考資料

１　各種様式

○コミュニティ・タイムライン（台風接近、前線停滞等の場合）・・・　７９

○避難場所の案内文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０

○初動対応の基準表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８１

○地区の行動指針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８２

○自主防災組織等の役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３

○防災活動に関する年間スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８４

○防災活動に関する中長期的なスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８５

○防災資機材の保有リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８６

○緊急連絡先一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７

２　参考資料

○活動支援プログラム

①災害図上訓練（DIG）で防災力を高めよう！・・・・・・・・・・・　８９

②防災マップを作ってみよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９０

③避難所運営ゲーム（HUG）をやってみよう！・・・・・・・・・・・・・　９１

○地区防災計画作成のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９２

○地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較）・・・・・・　９３

○災害が起こるとき　―風水害・土砂災害編―・・・・・・・・・・・・・・　９４

○警戒レベルと避難情報（風水害の例）・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９６

○避難行動判定フロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９８

○防災情報の入手・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９９

○用語集・・　１００

○地区防災計画等についてもっとよく知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０６

○地区防災計画に関する市町村窓口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１０

第１部

地区防災計画の概要

地区防災計画制度の概要や特徴、まず議論してほしい内容など、計画を作成する上で知っておいてほしいポイントや内容をＱ＆Ａ形式で紹介しています。

1　地区防災計画とは･･･

1　地区防災計画って、どのようなもの？

　地区防災計画は、自分達の命と地区を守るため、地区の居住者の方々や事業所自身が、災害に対する備えと必要な行動を検討し、みんなで共有しておきたいルールや防災活動を紙や冊子にまとめたものです。

背　景

✓　東日本大震災では、地震や津波により、市町村の行政機能が麻痺した一方で、地域住民による自助、地域コミュニティにおける共助が避難所運営等において重要な役割を果しました。その教訓を踏まえて、地区防災計画の制度が創設されました。

✓　発生が危惧されている南海トラフ巨大地震をはじめ、毎年のように繰り返される豪雨による土砂災害や河川氾濫等の大規模広域災害に備え、自助、共助の重要性がますます高まっています。

○平成 30 年 7 月豪雨災害

倉敷市真備町上空

２　なぜ、地区防災計画を作成する必要があるの？

災害時の救助活動の現場では、発災後の３日間（72 時間）が生死を分けると言われています。状況によっては、被災地域に「公助」が届かない場合があります。そのときに重要になるのが、「自助」「共助」です。

災害に備えて平時から共通ルールを決め、その内容を地区防災計画として取りまとめ、地区全体で共有しておくことが大切です。

取組の効果

- ✓ 地区のルールを自分達で決めて共有するとともに、実践的な訓練を行うことにより、「自助」「共助」の意識が高まります。
- ✓ 計画作成の取組を通じて、行政と顔の見える良好な関係が構築され、信頼関係ができていたことが、減災に結びついたとの報告もあります。
- ✓ 防災もまちづくりの一環であり、取組を通じて、地域コミュニティの維持・活性化にもつながります。

■住民同士で声をかけ合い、早期避難

（長野県長野市長沼地区）

●長沼地区は、たびたび水害に見舞われており、住民が主体となり、防災訓練や防災マップづくり、地区防災計画づくりに取り組んでいた。

●令和元年東日本台風の際は、各区長が集まり、高齢者の避難を決定し、地域ごとの名簿をもとに電話と訪問により、避難の呼びかけを徹底した。同地区津野では、足腰の弱い高齢者ごとに担当を決めて誘導する仕組みが活きて、避難行動要支援者を避難させることができた。

■土砂災害に備えた住民による避難行動の事前準備

（愛媛県松山市高浜地区）

●県から土砂災害警戒区域が公表されたことを受け、住民たちは自主防災マップを見直し、土砂災害用の新たな避難場所を決めるとともに、災害が差し迫った時は自主的な見回りを行うとしていた。このように地区で避難について議論し、行動を整理していたため、平成 30 年７月豪雨では、見回りが行われ、行政の指示を待たず避難できた。

出典：地区防災計画の素案作成支援ガイド（内閣府）

３　地区防災計画を作成する主体や範囲はどうすればいいの？

○地区防災計画作成の主体　地区居住者等とは･･･

地域住民をはじめ、防災士や民生委員など、日頃から地域で防災や福祉に携わる方や、防災活動の主体となりうる自治会、町内会、自主防災組織の関係者、事業所など様々な方が考えられます。

○どの範囲で地区防災計画を作成するのがよいか

特に決まりはありませんが、町内会や自治会、小学校区など、日頃から顔の見える関係性が構築されていたり、活動しやすい範囲がよいと思われます。

作成主体

✓　地区居住者等

計画作成の主体、範囲
12 ページ参照

［作成主体例の比較］

組織	例	メリット	デメリット
単独組織	**既存の組織を活用して計画を作成するケース** （例） 自治会、町内会、自主防災組織	✓取組に着手しやすい（例：場づくりの手間の省略、顔の見える関係性の構築） ✓将来的な見通しや活動に関する役割分担等を決めやすい	✓組織としての活動が休眠状態である場合が多い ✓人材に偏りがある ✓代表者の思いに左右されることがある
複数組織	**小学校区等の地域の特性や共通の目的を持つ複数組織がまとまり、計画を作成するケース** （例） まちづくり協議会、自治会や町内会の連合体	✓共通の目的を達成するための計画ができる（面的な広がり） ✓まちづくりの一環として、防災に取り組むことにより、課題解決に向けて連携が取りやすく、多様な主体の参画が見込める（例えば、防災と福祉の連携） ✓参加者が増えることにより、特技や技能を持った人材が増える	✓組織間の調整が必要である ✓様々な意見を集約し、方向性を出すのに苦労する

４　地区防災計画はどのような点に特徴があるの？

○地域コミュニティが主体となって作成し、市町村に提案する計画であること。
○地区の特性に応じた計画であること。
○継続的に地域防災力を向上させる計画であること。

計画の特徴

✓　地区居住者等により、自発的に行われる防災活動に関する計画書であり、地域コミュニティが主体となり作成する計画です。完成した地区防災計画（素案）は、市町村地域防災計画に定めることを提案できます。

✓　防災活動を行う主体、活動の範囲、計画の内容などを、地区の特性や実情に応じて自由に決めることができます。

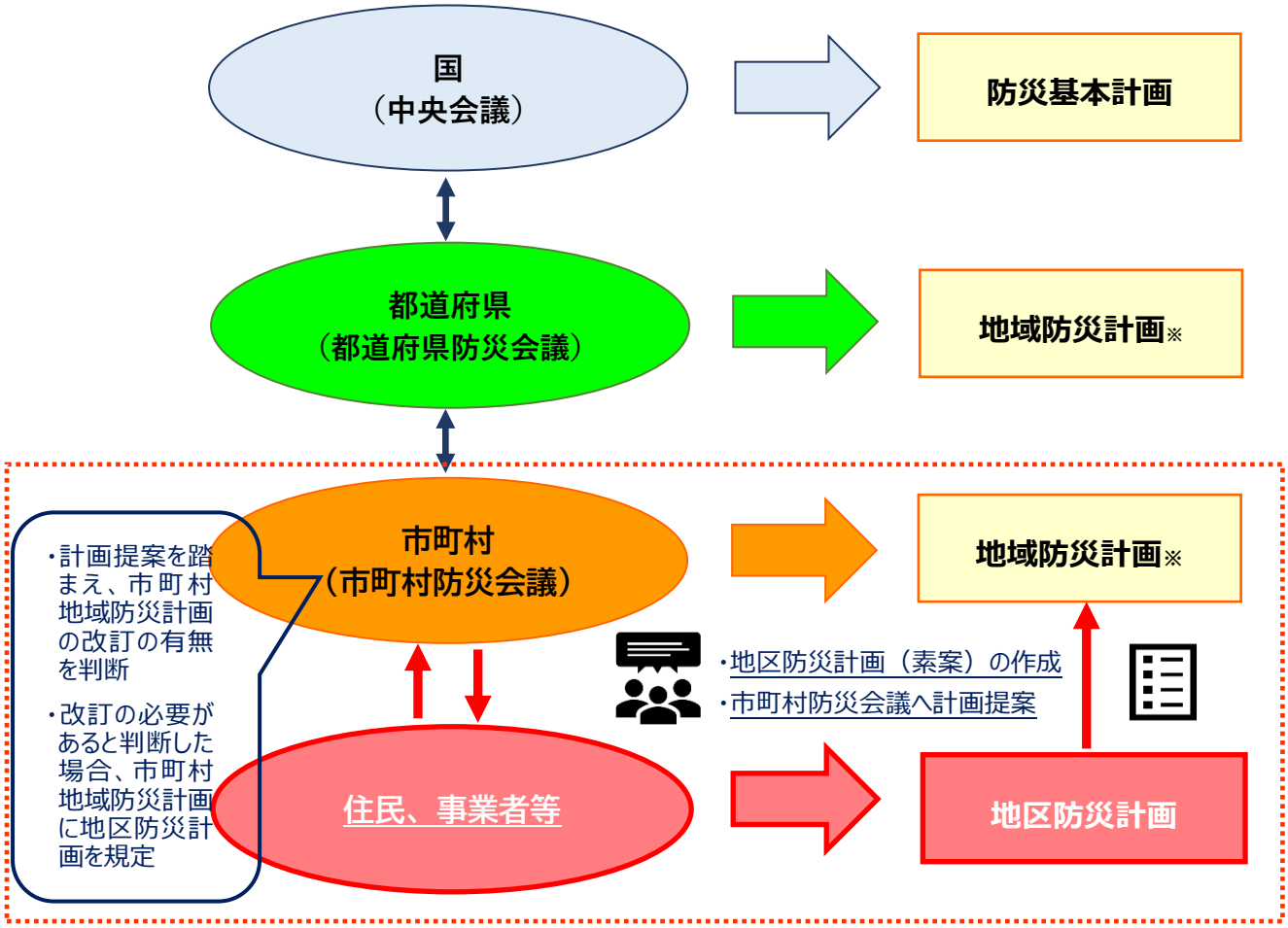
✓　作成後も、日頃から地区居住者等が力を合わせ、計画に基づいた活動を実践し、必要に応じて見直しを行うなど、防災活動を継続していくことで、地域の防災力を向上することができます。

［**地区防災計画に入れる項目例（参考）**］

平時	災害警戒時	応急対策時	復旧・復興時
・防災訓練、避難訓練 ・連絡体制の整備 ・避難経路・避難所の確認 ・要配慮者の安全確保など、地域で大切なことの整理 ・食料等の備蓄　等	・情報収集・共有・伝達 ・避難判断、避難行動 ・住民の所在、安否確認　等	・率先避難、避難誘導、避難支援 ・物資の仕分け、炊き出し ・避難所の運営、在宅避難者への支援　等	・被災者に対する地域コミュニティ全体での支援　等

■地区防災計画制度（イメージ図）

＜各種防災計画の基本＞



※地域防災計画・・・都道府県や市町村の各自治体が、災害対策基本法に基づいて作成する防災計画。防災活動の総合的かつ計画的な推進を図り、住民の生命・身体・財産を災害から保護することを目的としている。

■市町村防災会議への計画提案

［メリット］

- ✓ 地区防災計画が、市町村地域防災計画と一体的になることで、市町村による「公助」と住民等による「自助」「共助」が連携できるようになります。
- ✓ 災害時に各地区の現場で、地区居住者等が地区での避難行動、避難時や避難生活での相互支援の活動をどのように行うか具体的に整理され、明らかにできます。
- ✓ 市町村が、地区居住者等の行動や活動を把握できれば、「公助」による支援で何を補えばよいかを整理できます。

⇒ **「自助」「共助」の計画と「公助」の融合により、災害時の現場の動きが具体的に整理されるところが重要なポイントです。**

5　地区防災計画に何を定めたらよいか、分かりません。

○近年の災害の頻発化、激甚化の傾向を踏まえると、まず、「命を守る」ための行動や活動に関する事項を早急に議論してください。

○避難を確実に行うためには、地区で何を準備し、どのように行動すべきか、という視点で計画作成に着手してみてください。

［避難を確実に行うための行動や方法等を記載した計画例］

▶逃げるタイミングを記載した「逃げ時マップ」
（岐阜県恵那市の複数地区）

▶過去の災害を踏まえ、避難支援活動時間を定めた計画
（岩手県大槌町安渡地区）

▶地区住民、学校や企業等と主体ごとに避難要領を規定
（岩手県岩泉町小川地区）

▶地区外避難方法についてあらかじめ把握
（鹿児島県鹿児島市東桜島校区）

▶水位情報を基準として、避難タイミングを規定
（長野県長野市長沼地区）

出典：地区防災計画の素案作成支援ガイド（内閣府）

進め方

✓ **計画事項の一式がそろわないと不十分であるというのは誤解**です。

✓ **「命を守り、そしてつなぐ」ことを確実に行うため、避難に特化したところから始めてみましょう。優先事項を明らかにし、「小さく始めて大きく育てる」という意識を持って取り組んでみてください（最初から完璧を目指さない）。**

✓ 土砂災害や洪水等が想定される地区においては、避難時の混乱を防ぐため、地区の課題を踏まえ、避難のタイミングの判断基準や避難先、避難手段、避難方法、要支援者の避難支援の方法等をルール化し、周知することが重要です。

６　地区防災計画に盛り込むべき内容は？

○住民の命を守るために、地区の災害危険性の理解、安否確認（特に高齢者や障害のある方）、避難のルールや方法、避難所生活は、特に重要な部分です。

○地区防災計画は、主に「命を守る共助の計画」であり、特に自分だけでは避難が難しい要配慮者をいかに支援するかを中心にするのがよいと考えます。

跡見学園女子大学　鍵屋　一　教授

○災害時の緊急連絡網や災害対策配備のタイムライン、避難所運営マニュアルを中心に掲載している地区もあります。（津山市城西地区）

出典：地区防災計画の素案作成支援ガイド（内閣府）

第２部

基礎編
地区防災計画を作ってみよう！

地区防災計画の項目例、計画作成の進め方やそのポイントを紹介しています。
なお、本編は、第 4 部「地区防災計画の様式と記入例」、第 5 部「資料編　各種様式と参考資料」を参照する形式で構成しています。

1　地区防災計画の項目例

地区防災計画は、地区の特性に応じて、自由な内容で作成できるようになっています。
地区居住者等の意向を反映し、「実践できる計画」を作成しましょう。

■地区防災計画の項目例　　出典：地区防災計画ガイドライン（内閣府）

1　計画の対象地区の範囲
△△市△△町

防災活動を実践する範囲を指定します。

2　基本的な考え方
（１）基本方針（目的）
（２）活動目標
（３）長期的な活動計画

地区の課題を踏まえ目的と目標を示します。

3　地区の特性
（１）自然特性
（２）社会特性
（３）防災マップ

市町村が作成するハザードマップや過去に発生した災害をもとに地区の状況を確認し、記録します。

4　防災活動の内容
（１）防災活動の体制（班編成）
（２）平常時の活動
（３）発災直前の活動
（４）災害時の活動
（５）復旧・復興期の活動
（６）市町村等、消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携

実際の活動場面を想定し、具体的に記載します。

5　実践と検証
（１）防災訓練の実施・検証
（２）防災意識の普及啓発
（３）計画の見直し

計画の実効性を検証し、定期的に内容を見直します。

進め方　11ページ参照
様　式　61ページ参照

［ポイント］
□最初からすべての項目について作成する必要はないよ。「小さく始めて大きく育てる」という意識を持って、少しずつ取り組んでみよう。
□マニュアルの後半では、赤枠部分の記入例を紹介しているよ。参考にしてみよう！

2　地区防災計画作成の流れ

地区防災計画に記載する項目や作成の流れは、特に決まっていません。

次に紹介する手順を参考にしながら、それぞれの地区にふさわしい進め方で計画作成に取り組んでみましょう。

［計画作成の流れ］

Step 1　話し合いに参加するメンバー等を決める。

↓

Step 2　地区の現状や災害リスクを把握する。

↓

Step 3　地区に必要な防災活動を検討する。

↓

Step 4　地区防災計画（素案）を取りまとめる。

↓

Step 5　防災訓練を実施する。

↓

Step 6　取組を振り返り、素案の内容を見直す。

Step 1　話し合いに参加するメンバー等を決める。

▶基本的な取組体制を考えてみよう！

□地区防災計画は、防災の取組に対する関係者の共通理解を図るため、話し合いを通じて決めたことを「共通ルール」として文書化したものです。

□大切なのは、話し合いを通じて「共通ルール」を決める、その過程です。

□計画作成の取組を通じて、地域のつながりを大切にした災害時に助け合う仕組みをつくることを目的としています。

■計画の作成主体、活動する地区の範囲や目的を決める

✓　防災も地域づくりの１つです。参加者を幅広く求めることにより、さまざまな立場の意見等が得られ、平時及び災害時の防災活動について、深く議論できるようになります。

［参加者の例］

市町村職員、自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、防災士、民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体　など

✓　自治会等の既存組織の中に話し合うグループを設けてみましょう。地域づくりの一環として防災を話題にすることで、組織内の横のつながり（例えば、防災と福祉の連携）が生まれ、効果的な連携により、課題解決に向けた取組の相乗効果が生まれやすくなります。

［ポイント］

□話がしやすい範囲を考えてみましょう。目的や目標を決めると、その達成のために必要な関係者の範囲や取組内容も決まってきます。

□地域の実情に応じて、様々な作成主体が考えられます。

□地域で防災や福祉に携わる方をはじめ、様々な立場の方々の参加を求め、それぞれの視点で意見を求めましょう。幅広い世代の男女の参加を求めるなど、視点が偏ることのないよう工夫をしてみましょう。

［作成主体例の比較（再掲）］

組織	例	メリット	デメリット
単独組織	**既存の組織を活用して計画を作成するケース** （例） 自治会、町内会、自主防災組織	✓取組に着手しやすい（例：場づくりの手間の省略、顔の見える関係性の構築） ✓将来的な見通しや活動に関する役割分担等を決めやすい	✓組織としての活動が休眠状態である場合が多い ✓人材に偏りがある ✓代表者の思いに左右されることがある
複数組織	**小学校区等の地域の特性や共通の目的を持つ複数組織がまとまり、計画を作成するケース** （例） まちづくり協議会、自治会や町内会の連合体	✓共通の目的を達成するための計画ができる（面的な広がり） ✓まちづくりの一環として、防災に取り組むことにより、課題解決に向けて連携が取りやすく、多様な主体の参画が見込める（例えば、防災と福祉の連携） ✓参加者が増えることにより、特技や技能を持った人材が増える	✓組織間の調整が必要である ✓様々な意見を集約し、方向性を出すのに苦労する

■協力者（外部人材）を確保する

○自治体職員

✓　防災活動は、「自助」「共助」「公助」がそれぞれ連携して行うことが重要です。計画作成に当たっては、市町村の地域防災計画に沿った取組と地区の活動の整合性が図られるよう、自治体職員に相談してみましょう。

○防災士等

✓　身近な防災の専門家として、地域に防災士の資格を持った方がいる場合は参加を求めてみましょう。

✓　県では、地域の防災活動を支援するため、防災士や元消防職員等で構成する「岡山県自主防災組織支援講師団」を設置し、講演やワークショップの開催など、地域の要望に応じて、講師を派遣する事業を行っています。

詳しくは、岡山県危機管理課のホームページをご覧ください。
岡山県自主防災組織支援講師団　検索

○防災分野や福祉分野の学識経験者

✓　防災意識を高めるため、日頃から防災や福祉について研究している大学教授等の学識経験者に講演を依頼することも効果的です。

○ＮＰＯ法人やコンサルタント等の職員

✓　地区防災計画を作成する意義を分かりやすく説明してもらったり、計画作成に向けた話し合いの進行や参加者が意見やアイデアを出す作業を支援してもらうため、ＮＰＯ法人やコンサルタントの職員に参加を求める方法もあります。

Step 2　地区の現状や災害リスクを把握する。

○把握のプロセス

2－（1）防災意識を高める → 2－（2）地区の特性を知る → 2－（3）防災まち歩きの実施 → 2－（4）防災マップの作成

※上記は例示であり、地区の実情に応じて取組を進めてください（上記のとおり進める必要はありません）。

▶Step２－（１）　防災意識を高める

□災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。また、災害に直面した場合、冷静なつもりでも的確な判断や行動が難しくなるものです。

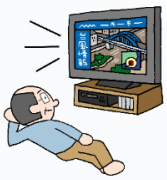
□いざというときに、正確に状況を把握し、慌てず落ち着いて命を守る行動がとれるよう、日頃から災害時の備えをしておくことが大切です。

□その１つが地区防災計画作成の取組です。

▼正常性バイアスとは・・・

・考えや意見に偏りを生じさせるものを「バイアス」と言います。人は異常事態に遭遇したとき、なるべく正常であると解釈する傾向にあります。

・「このようなことは起こるはずがない」「信じられない」と自分にとって都合の悪い情報を無視したり、目の前に起きていることを過小評価したりしてしまい、何かの間違いだと思うことがあります。この心理的傾向を「正常性バイアス」と言います。



▼災害時に適切な避難行動をとれない心理状態

さあ、あなたはどうしますか・・・

・災害時など、危険が目の前に差し迫っていても、自分は「大丈夫」と思い込み、避難行動をとらなかったことが報告されています。

・正常性バイアスは、誰にでもあり得る心理状態です。災害時に適切な避難行動がとれるよう、自分が暮らしている地区の災害リスクを正しく理解し、「自分は被災しないだろう」ではなく、「自分も被災するかもしれない」という意識を持って日頃から災害に備えるようにしましょう。

■外部人材にアドバイスを求める

✓　地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的なイメージができず、作成が難航することもあります。
取り組むと決めたら早い段階で、市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加してもらい、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

✓　取組に必要となる知識や他地区での先行事例等を知ることができます。
※地区防災計画に関する市町村窓口は、110 ページに掲載しています。
※他地域の先行事例
岡山県地区防災計画等作成モデル事業　検索

■楽しみながら防災について学ぶ

✓　楽しむことができなければ、取組は長続きしません。
下記のような体験ゲーム等を取り入れながら、幅広い世代で防災について考える機会を増やしましょう。体験したいときは、市町村職員等に相談してみましょう。

［体験ゲーム等の例］

●災害図上訓練（DIG）

89 ページ参照

グループで行う地図上での訓練。

［初級・中級編］
・地区の強みや弱みを把握するとともに、災害時に活用できる資源を整理する。
・ハザードマップを活用し、想定される災害リスクを理解する。

［応用編］
・災害が発生した想定で、災害の状況や今後起こりうる危険性を予測しながら、地図に状況を整理し、災害対応のイメージをトレーニングする。

●避難所運営ゲーム（HUG）

91 ページ参照

避難所運営のシミュレーションゲーム。カードを使いながら、避難所に見立てた平面図への避難者の配置やトラブルへの対応を模擬体験できる。

●防災運動会

防災訓練をシミュレーションした運動会（担架リレー、バケツリレー、土のう積みリレー、防災クイズ等）。地域行事とあわせて行うことで幅広い世代の参加が見込める。

▶Step２－（２）　地区の特性を知る

□市町村が作成するハザードマップや、過去に発生した災害の事例等を挙げながら、参加者で地区の特性を確認しましょう。

□確認したい特性は、「ヒト」「モノ」「環境」です。これらの特性を知ることで平時と災害時に必要な防災活動が見えてきます。

□進め方等が分からない場合は、20 ページ（地区の特性を知る）、34 ページ（話し合いの進め方）を参考にしたり、市町村職員等に相談したりしましょう。

■作業のポイント　地区の特性の把握（現状や課題の把握を含めて）
■用意するもの　ハザードマップ、白地図、付箋紙、カラーペン、丸シール（カラー）　等

［特性に応じた確認事項と検討したい課題例］

特性	確認事項	検討したい課題例
ヒト	人口、世帯数、年齢構成、避難行動要支援者（高齢者や障害のある方等）の状況、地域コミュニティの特徴	□避難行動要支援者の把握と住まいの環境確認（災害リスク等の把握） □住民同士、行政との顔の見える関係づくり □要支援者を迅速に避難支援できる体制づくり
モノ	地区資源の状況	□地区資源の掘り起こし （例）地区の強みや弱みの把握　等 強み：災害時に活用できるモノ、施設　等 弱み：インフラの設置状況、医療機関・商業施設の有無　等
環境	想定される災害リスクの把握（過去に発生した災害事例を踏まえて）	□過去の災害発生箇所の把握 （例）河川や水路の氾濫発生箇所、土砂災害の発生箇所　等 □孤立するおそれのある集落等の把握 □避難場所や安全な避難経路の確認 □危険箇所の把握

１　地区の現状や課題の把握

□災害時に防災活動を行うためには、関係者で地区の危険箇所を把握し、地区の現状や課題を話し合うなどの平時の取組が大切です。

□参加者が把握している情報や気づいたことをどんどん出し合い、地区の現状や課題について地図や付箋紙を使って整理してみましょう。

（１）参加者の例

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体　等

（２）用意するもの

ハザードマップ（市町村作成）、白地図、付箋紙（大・中）、カラーペン、丸シール（カラー）、作業の進め方（手順書）

（３）進め方

✓　地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的なイメージができず、作成が難航することもあります。

✓　取り組むと決めたら早い段階で、市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加を依頼し、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

（４）取組内容

①危険箇所や災害リスク等の把握

・土砂災害や浸水等の災害リスクのある区域等の確認

（例）土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域、津波浸水想定等

・避難経路上にある危険箇所の把握

（例）河川、用水路、ため池、落石危険箇所等

・地域に存在する災害時に利用できる施設等

（例）公園、広場、高台、ビル、コンビニエンスストア、
医療機関、建設機材所有業者、保健師、看護師、元消防士等

②避難行動要支援者と避難支援等実施者の住まいの位置関係の確認

・災害発生時の危険性の予測

（例）迂回路がなく、災害時に孤立するおそれがある
河川のそばに家があり、土地が低く浸水のおそれがある　等

2　意見等の整理

参加者で話し合った結果を白地図に書き込み、意見等を整理します。

作業の進め方　39 ページ参照

①白地図への書き込み（区分例）

区分	色	線	シール
主要道路や県道	茶色		
路地、幅員の狭い道	赤色		
公園や広場（オープンスペース）	黄緑		
用水路や貯水槽	水色		
防災上、役に立つ施設やモノ	桃色		●
官公署、医療機関、災害救援機関等	緑色		●
避難行動要支援者（名簿情報の提供に同意した人）	赤色		●
要配慮者（気になる人を含む）	黄色		●

参加者で共有しやすいように付箋紙を使い、模造紙等に情報を整理

②意見等の整理表（記入例）

地区の強み（いいところ）	こんなことができたらいいな
・地区のまとまりがある ・若い世代が増えている ・高齢者のつながりが強い ・地区の特性や歴史をよく知る者がいる ・コンビニやドラックストアがあり、食料や薬等を確保しやすい環境がある	・住民同士の交流や協力 ・タイムライン（防災行動計画）の作成 ・地区で暮らす要配慮者を記したマップの作成
地区の弱み（困りそうなこと）	**私たちにできること**
・水害の危険性 ・防災意識が低い ・要配慮者の把握（高齢者が多い） ・道路や避難所が狭い ・避難判断に対する温度差がある ・住民同士のコミュニケーションが少ない	・ご近所同士で助け合う ・日頃から声かけや見守りを手伝う ・昔の地区の記録を残し、伝えること ・訓練への積極的な参加

◎みんなでチャレンジ！（実践編）

ワーク
ショップ

▶Step２－（２）　地区の特性を知る

自治会･町内会･自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員など、防災や福祉分野の関係者が集まり、自分が暮らしている地区の現状や理想とする将来像について話し合ってみましょう。

その後、参加者全員で出された意見等を情報共有しましょう。

■計画書作成に向けた作業工程箇所
別添「地区防災計画（記入例）」　66 ページ～
３　地区の概要
（１）地区の特性
（２）予想される災害リスク（風水害･地震）
（３）過去の災害例

過去の災害について知る

皆さんの住む地区で想定される災害には、どのようなものあるでしょうか。

日本は、その位置、地形、地質、気候等の自然的な条件から、暴風、竜巻、豪雨、洪水、がけ崩れ、地すべり、土石流、高潮、地震、津波、豪雪等による災害が発生しやすくなっています。

過去に発生した自然災害を調べ、どのような災害が起こり、どれほどの被害が発生したのか、対応の問題や課題があったのかなどを知ることは、地域コミュニティにおける災害対応を考える上で重要になります。

また、集中豪雨や台風に限らず、冬場の降雪による被害についても対策を検討してみましょう。

▶Step２－（３）　防災まち歩きの実施

□防災まち歩きは、自分の暮らしている地区を歩き、地区内の自然、施設、人、災害時に危険な箇所等を確認し、記録する作業です。

□「ヒト」「モノ」「環境」の特性に着目し、避難経路や避難先、安全な場所、危険な箇所、避難行動要支援者の住まいの地理的環境等について、現場で確認してみましょう。

地図上や書類上では気づかなかった視点など、実際に歩くことで、「生の情報」を得ることができる。

□子どもから年配の方まで幅広い世代の参加を求めたり、「朝」「昼」「夜」と実施する時間帯を変えたりすることで、多様な情報を得ることができます。

得られた情報を地図に記載したり、地区の写真を撮影して資料として保管することで、現状を住民に周知できる上、貴重な記録として次世代へ残すこともできる。

▶Step２－（４）　防災マップの作成

□防災まち歩きで集めた情報を整理し、「防災マップ」を作成します。

［マップに書き込む例］

安全な場所、危険な箇所、避難場所、災害時に活用できる資源の情報　等

マップを作成し、可視化できるようにすることで情報を共有しやすくなり、災害時に必要な活動や避難経路等の検討資料として有効活用できる。

□コミュニティハウス等に貼り出すことにより、情報を共有することができる。

■作業ポイント　地区の特性の確認
■用意するもの　ハザードマップ、白地図、付箋紙、カラーペン、丸シール（カラー）　等
■進め方　26 ページ参照

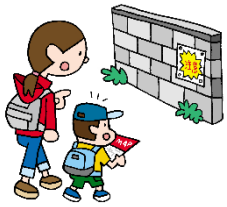
■防災まち歩きと防災マップについて

●防災まち歩き

・役に立つもの、危険なもの、その他（25 ページのチェックポイント参照）を点検し、写真を撮影したり、地図に記録したりする。

・写真を撮影したときは、記録用紙に写真番号、被写体の名称等を記入する。

●防災まち歩きを行うグループの結成



・防災まち歩きを行う対象地区ごとにグループをつくる。

●地図にまとめる

・撮影した写真を印刷し、写真番号と名称を記入する。

・地図上の被写体の位置に丸シールを貼り、写真番号を書き込む。

・写真の位置を決めて地図に貼る。

●防災マップって何？

・防災マップは、災害に対して住民が安全に避難し、安心して生活するために必要な情報を集めた地図のことです。住民が作成し、地区で共有します。

・ハザードマップは、災害の被害予想等を示した地図のことです。市町村が作成し、住民に配付したり、ホームページで公開したりしています。

●マップを作成する目的は？

・地区の安全な場所や危険な場所を視覚的に認識する。

・被害予想と照合し、安全な避難計画をつくる。

●被害を想定する

・地区居住者で相談し、被害想定をする災害種別を確認する。

（例）土砂災害、河川洪水、地震、津波等

１　地区の現状等の確認

□災害時の防災活動は、関係者で地区の危険箇所を把握の上、実際に避難経路を歩き、現状を確認するなどの平時の取組が欠かせません。

□参加者が把握している情報や気づいたことをどんどん出し合い、地区の現状等を記録し、地図や付箋紙を使って整理してみましょう。

（１）参加者の例

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、
民生委員、社会福祉協議会職員、子ども会等の各種団体　等

（２）用意するもの

①防災まち歩き

防災まち歩き用の地図、ハザードマップ（市町村作成）、カメラ、バインダー、筆記用具、チェックシート、作業の進め方（手順書）

②防災マップの作成

ハザードマップ（市町村作成）、白地図、防災まち歩きで書き込んだ地図・写真、付箋紙（大・中）、カラーペン、丸シール（カラー）、作業の進め方（手順書）

（３）グループ分けと役割分担

防災まち歩きを実施する時は、１グループが６～１０人程度になるように分けて、役割分担を決めておくましょう。

□リ　ー　ダ　ー・・・グループを引率
□カ　メ　ラ　役・・・危険な場所等の写真を撮影
□記録役・・・地図や記録用紙（28 ページ参照）に必要な情報を記入
□アシスタント・・・カメラ役のアシスタント
□安全確認役・・・自動車等の往来に注意し、参加者の安全を確保

（４）確認の流れ

はじめに

- 地区防災計画の作成に取り組もうと思っても、防災に関する知識や経験がないと、具体的にイメージすることが難しく、作成が難航することもあります。
- 取り組むと決めたら早い段階で市町村に相談し、職員や有識者等の外部人材に参加してもらうなど、アドバイスを求めながら進めていきましょう。

防災まち歩き

- あらかじめ話し合った地区の危険箇所等について、実際に歩きながら点検します。
- 避難するときに支障となるものや危険なもの、避難場所等を地図や記録用紙に記入し、写真を撮影していきます。

防災マップ

- 防災まち歩きの結果を整理し、地図に記入します。撮影した写真も地図に貼り付けていきます。

まとめ

- 白地図に情報を整理し、防災マップを完成させましょう。その後、地区居住者全員で情報を共有しましょう。
- 地区の資源は時間とともに変化するため、定期的に見直しましょう。

■防災まち歩きと防災マップ作成のチェックポイント

●役に立つもの

No	分類	例
1	人が集まる場所	学校、集会所、公民館、公園、広場、神社、寺、駐車場
2	火災消火	防火水槽（水）、消火栓（栓）、ホース収納庫（ホ）、消防団詰所（詰）
3	物資の調達等	自動販売機（自）、店舗、企業、工場
4	医療関係	病院、医院、薬局、AED（Ａ）
5	防犯、防災	交番、警察署、消防署、市役所、防災倉庫
6	生活	ごみステーション（ゴ）、広報掲示板（掲）、公衆電話（公）

●危険なもの

No	分類	例
1	壊れそうなもの、落ちる、飛んでいくもの	空き家、ブロック塀、落ちそうな看板、飛びそうなトタン屋根、古いコンクリート構造物
2	道路	狭い道路、トンネル、古い歩道橋
3	水辺、低湿地	川、沼、池、ため池、湿地帯、用水路
4	傾斜地	がけ、急傾斜地、岩が落ちてきそうな場所

●その他

No	分類	例
1	字界	地区と地区の境界、行政区の境
2	災害履歴	過去に災害があった場所
3	その他	行き止まり、暗がり、孤立したところ

◎みんなでチャレンジ！（実践編）

ワーク
ショップ

▶Step２－（３）　防災まち歩きの実施

▶Step２－（４）　防災マップの作成

自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、民生委員、社会福祉協議会職員など、防災や福祉分野の関係者が集まって、防災まち歩きを行ってみましょう。

その後、参加者全員で白地図に情報を整理し、防災マップを作成しましょう。

■計画書作成に向けた作業工程箇所
別添「地区防災計画（記入例）」　66 ページ～
３　地区の概要
（１）地区の特性
（２）予想される災害リスク（風水害・地震）
（３）過去の災害例

（様式）

防災まち歩き・防災マップ作成　グループ編成表

■日　　時：　　年　　月　　日（　）　○○：○○～○○：○○

■天　　候：

■対象地区：

役	氏名	役割	準備物
リ　ー　ダ　ー		グループのリーダー 意見の取りまとめ、記録の指示	記録用紙 筆記用具、バインダー
カ　メ　ラ		被写体を撮影	カメラ（チェキやデジタルカメラ等）
撮影記録		写真に番号をつけて、記録用紙に写真番号や被写体の名称等を記入	記録用紙 筆記用具、バインダー
地図記録		地図上に写真番号を記録	A３地図 筆記用具、バインダー
点検１隊		役に立つものを見つける	
点検２隊		危険なものを見つける	

※１　安全に十分配慮すること。
※２　私有地に入らないこと。
※３　大きな声を出すなどの迷惑行為は慎むこと。

（様式）

防災まち歩き・防災マップ作成　記録用紙

■日　　時：　　年　　月　　日（　）　○○：○○～○○：○○

■天　　候：

■対象地区：

写真番号	役に立つもの	危険なもの	その他	名称	特記事項

Step 3　地区に必要な防災活動を検討する。

▶平時と災害時の防災活動を検討してみよう！

□地区の状況を確認した後、地区に必要な防災活動について具体的な検討に入りましょう。下表も参考にしつつ、これまでに把握した地区の特性を再確認しながら、必要と思われる活動を挙げて話し合いましょう。

□防災活動は、災害時だけに限らず、平時の活動も検討する必要があります。平時、災害警戒時、応急対策時、復旧・復興時といった各段階に分けて考えてみましょう。

□地区の活動（共助）だけでなく、地区防災計画作成の取組を通じて、自助や公助との関係についても合わせて整理しましょう。

■進め方

✓　必要な活動を挙げたら、その場面を想定し、活動内容を具体的に考えます。

✓　一つ一つの活動について、「誰が」「何を」「どれだけ」「どのようにすべきか」を検討し、地区居住者等がどのように活動すればよいかイメージできるように具体化していきましょう。

✓　平時及び災害時の活動体制を検討してみましょう。

■防災活動の内容検討
地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較）　93 ページ参照

［平時］　［災害］

▶活動の発展性
- 自治体と連携する
- 地域の活動と連携する
- 他の組織と話し合う
- 取組を発信する

▶災害時の対応力の向上
- 事前対策を行う
- 訓練を行う
- 中身を改善する

	直前	初動	応急	復旧	復興
誰が					
何を					
どれだけ					
どのように					

自分は何をすべきか？／みんなで何ができるか？

［想定される防災活動の例］

平時	災害警戒時	応急対策時	復旧・復興時
□防災訓練、避難訓練の実施（情報収集・共有・伝達訓練を含む） □活動体制の整備 □連絡体制の整備 □防災マップの作成 □避難経路の確認 □指定緊急避難場所、指定避難所等の確認 □避難行動要支援者の避難支援など、地域で必要となる支援の確認（見守りや声かけ） □食料や資機材の備蓄 □救助技術の取得 □防災教育の普及啓発活動	□情報収集・共有・伝達 □連絡体制の整備 □状況把握（見回りや所在確認） □防災気象情報の入手・確認 □避難判断、避難行動等	□身の安全の確保 □初期消火 □住民による助け合い □救出及び救助 □避難誘導、避難支援 □情報収集・共有・伝達 □物資の仕分け、炊き出し □避難所運営、在宅避難者等への支援	□被災者に対する地域コミュニティ全体での相互支援 □行政関係者、学識経験者等が連携し、地域の理解を得て、速やかな復旧・復興の活動を促進
消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携			

［防災資機材の例］

目的	防災資機材の例
情報収集・共有・伝達	携帯用無線機、拡声器、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ用紙、油性マジック　等
初期消火	可動式動力ポンプ、防火水槽、ホース、格納器具一式、消火器、防火衣、ヘルメット、水バケツ、防火移動　等
水防	救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、ロープ、土のう袋、手袋　等
救出	バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、防煙・防塵マスク　等
救護	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド　等
避難所運営	リヤカー、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識版、標識、強力ライト、簡易トイレ、寝袋、組立式シャワー　等
給食・給水	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク、飲料用水槽　等
訓練・防災教育	消火訓練用水消火器、模擬訓練資機材、組立式水槽　等
その他	簡易機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器　等

Step 4　地区防災計画（素案）を取りまとめる。

▶地区防災計画（素案）を作成しよう！

□防災活動の内容や体制を検討したら、地区防災計画（素案）の作成に着手しましょう。

□計画（素案）は、市町村防災会議に提案（計画提案）できます。

□提案された計画（素案）は、市町村防災会議で審議され、地域防災計画に定める必要があると判断された場合、同計画に定められることとなります。

■進め方

✓　計画の様式や必要な項目については、市町村職員や防災の専門家の意見を聞きながら、進めましょう。

✓　地区をより良くするためには、多様な主体が参画した話し合いが必要です。それぞれの視点から出される意見を大切にして取りまとめてみましょう。

［ポイント］

□61 ページから紹介している記入例や項目例は参考情報です。同じ項目や内容にする必要はありません。地区の実情に応じて作成してみましょう。

□計画は一から作成する必要はありません。地区で引き継がれている書き物があるときは、それをうまく活用しましょう。

□地区の現状や想定される災害リスクを確認しつつ、「できていること」「できていなこと」に分け、これまでの防災活動を整理してみましょう。

□「みんなに知っておいてほしいこと」「ルールにしておきたいこと」を話し合い、その結果を文書にまとめていきましょう。

□最初からたくさんの項目を計画に盛り込む必要はありません。できることから取り組み、少しずつ項目を増やしていきましょう。

Step 5　防災訓練を実施する。

▶防災訓練を実施しよう！

□地区防災計画作成の取組は、計画を立てるだけでなく、計画に基づいた活動を実践することも大切です。防災訓練を通して体制が機能し、実効性のある活動ができるかを確認してみましょう。

□防災訓練を振り返り、課題を整理してみましょう。防災訓練を行うと、想定と違ったり、うまく体制が機能しなかったりすることがあります。一つずつ解決し、改善していきましょう。

■進め方

✓　訓練で参加者一人ひとりが考えながら行動できるよう、実災害に近い状況を設定するとより効果的です。一から準備すると大変です。市町村が実施する防災訓練とあわせて行うことも有効ですので、相談してみましょう。

✓　訓練を行うことで課題が見えてきます。訓練の結果を参加者全員で共有し、計画の見直しにつなげましょう。

✓　住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という意識を持つことが大切です。こうした機会に日頃から水、食料、生活用品の備蓄や非常持出品を準備し、災害に備えるよう、地域住民への啓発にも力を入れましょう。

✓　自主防災組織の関係者等は、避難支援の際に必要となる資機材の準備や点検もしておきましょう。

［ポイント］

□さまざまな立場からの意見や助言が得られるよう、できるだけ幅広い分野の関係者に参加してもらいましょう（例：自治会・町内会・自主防災組織の関係者、消防団員、防災士、避難行動要支援者、要支援者の家族、民生委員、市町村職員等）。

□円滑に避難ができるよう、避難行動要支援者自身も非常持出品袋の準備や身支度など、避難準備に努めましょう。

□振り返りは、記憶が確かな訓練直後に行うことが望ましいです。

Step 6　取組を振り返り、素案の内容を見直す。

▶地区防災計画（素案）を見直そう！

□防災訓練で明らかになった課題等を踏まえ、地区防災計画（素案）を見直しましょう。

□地区防災計画は、一度作成したら終わりではありません。防災訓練で体制がうまく機能しなかったり、年月を経て関係者や居住者の顔ぶれが変わったりすることもあるため、定期的な見直しが必要となります。

３　話し合いの進め方

（１）話し合いのポイント

①メンバーが参加しやすい頻度や時間帯を設定

話し合いの回数、開催時期、全体スケジュールなど、今後の見通しを決めて、関係者と共有しましょう。

［話し合う人数］

- 今後の見通しを話し合う場に、必ずしも大勢の方に集まってもらう必要はありません。中心的な役割を担う方や話し合いに入ってほしい方など、限られた人数のほうが議論しやすく、方向性も定まりやすい場合もあります。
- 全体で話し合うときも、常に多くの住民に集まってもらう必要はありません。テーマや内容に応じて、人数を検討してみましょう。

［全体スケジュール］

- 全体スケジュールをいったん決めたとしても、必ず、その通りに進める必要はありません。進捗状況を確認し参加者の意見を聞きつつ、柔軟に調整しましょう。

［開催頻度］

- 準備する時間を考慮すると、１～２ヶ月に１回程度の開催が望ましいですが、地域の実情に応じて、無理のない期間で設定しましょう。
- 様々な方が参加できるよう、参加しやすい曜日や時間帯も検討してみましょう。

②各回の目標や狙いを参加者で共有

事前に目標や狙いを決めて参加者に伝えておくことで、何について話し合うかが明確になり、有意義な議論につながります。

また、当日配付する会議次第にも目標等を明記しておくと、議論する内容がわかりやすくなり、話し合いが活性化されます。

③役割分担の決定

プログラムに合わせて司会や説明者、記録係等の役割分担を決めましょう。

④少人数に分かれて意見交換

参加者全員が意見を出せるよう、参加者の人数に応じてグループ分けを行い、グループごとに話し合い、意見をまとめていきましょう。これを「ワークショップ形式による話し合い」といいます。

意見は付箋紙に書くと整理しやすくなります。

［所要時間］

- 全員が意見を出せるよう、テーマや人数に応じて時間を配分しましょう。
- 話し合い疲れしないよう、まずは 20～30 分を目安に設定してみましょう。

［グループ分け］

- グループ全員が意見を出し合えるよう、グループの人数を調整しましょう。
- 世代、性別、所属等にできるだけ偏りが出ないようにしましょう。

［準備物］

- 模造紙（グループ数を用意）
- 付箋紙（大・中／グループ数を用意）
- マジック（参加者数を用意）

［役割分担］

- 全体を取りまとめる事務局担当（複数人体制）を決める。
- グループごとに進行役や記録役を決めておく。

⑤各回の最後に振り返りの時間を設定

議論の結果をまとめるため、最後に振り返りの時間を設け、出された意見等を参加者で共有しましょう。ホワイトボードや模造紙等に記録しながら進めると、振り返りやすくなります。

［ポイント］
✓ 意見は文章ではなく、「キーワード」で書くのがポイントです。特に大事なキーワードは色を付けて強調すると最後に確認しやすくなります。
✓ 意見は付箋紙に書くと、整理しやすくなります。

⑥次回の検討テーマを事前に連絡

次回の話し合いまでに自身の考えを整理して臨むことができるよう、事前に検討テーマを参加者に連絡しましょう。

例えば、次回の検討テーマとして水害について話し合うときは、マイ・タイムラインの作成など、事前に各自でできる作業を課題として用意することで、検討テーマのイメージがより具体化され、効果的な議論につながります。

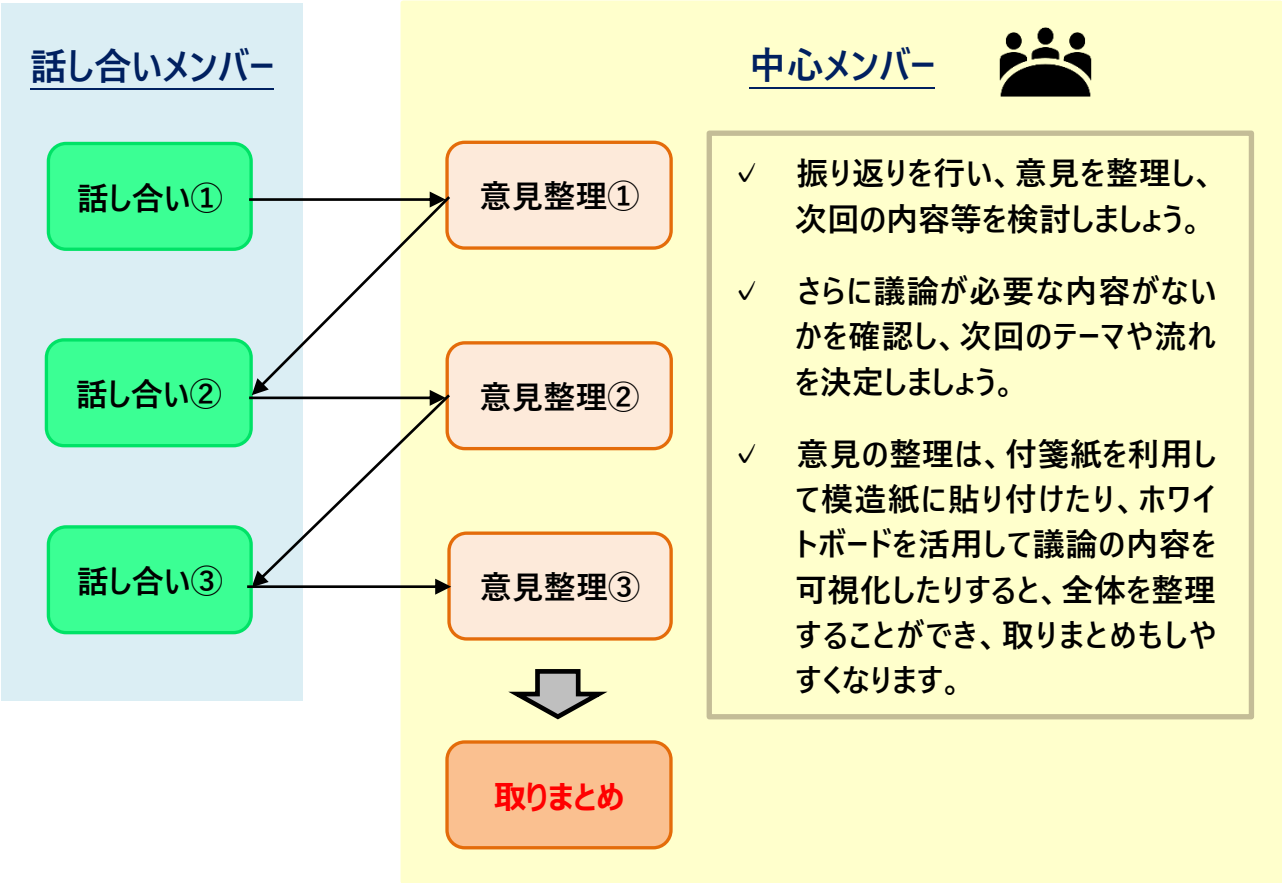
下記資料は、県モデル事業で計画作成に取り組んだ地区で使用したものです。

■地区防災計画作成のスケジュール（進捗管理表）
●●市●●地区　地区防災計画作成スケジュール（案）　92 ページ参照
・スケジュールについては、できるだけ見える化しましょう。
取組の中で、現在、自分達がどこを進んでいるかを確認でき、今後の方向性を参加者同士で共有できるようになるので、議論が活性化します。
・パソコンの操作が得意な方に話し合いに参加しもらいましょう。

■計画の内容検討
地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較）　93 ページ参照
・計画に入れる項目に迷ったときは参考にしてみましょう。

（２）意見の整理等

議論を積み重ねていくため、話し合い終了後、会長や役員等の中心メンバーで出された意見を整理し、次回の内容等を練りましょう。



（３）具体的な進め方

プログラム例（39～51 ページ参照）を参考にしながら進めてみましょう。

開催案内を作成して参加者を幅広く呼びかけましょう。

［各回共通で準備するもの］
- ✓名札等（お互いの名前が分かるように、参加者全員が着用しましょう）
- ✓受付名簿
- ✓白地図または住宅地図、模造紙、ハザードマップ、付箋紙、カラーペン

■話し合いの流れ（参考例）

第１回	・地区防災計画について（勉強会） ・地区の災害リスクの把握と資源等の確認
第２回	・防災まち歩きの実施 ・防災マップの作成
第３回	・活動体制の検討
第４回	・マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインの検討 ・各班の具体的な防災活動の検討
第５回	・震災時における防災活動の検討
第６回	・地区防災計画（素案）の披露

各回の話し合いのプログラム例　39～51 ページ参照

プログラム例

（会議次第）

■第１回　地区防災計画について（勉強会の開催）

1　目　標

●地区防災計画を理解する。

●参加者全員で話し合いのスケジュールと進め方を共有する。

2　資　料

●地区防災計画制度等の説明資料

●ハザードマップ等の地区の特性に関する資料

3　プログラム

［司会：〇〇］

1　開会

2　地区防災計画とは

3　質疑応答

4　ワークショップ　地区の特性と資源を考えよう

・Ａグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Ｂグループ：・・・・

5　閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約５分	１　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ この地区における防災の課題としては･･･だ。地区に合った独自の防災計画を作っていきたい。
約 20 分	２　地区防災計画とは	「地区防災計画とは」「地区防災計画の内容」について説明する。
約 15 分	３　質疑応答	計画について参加者から質疑応答を受ける。
約 60 分 約 15 分	４　ワークショップ （１）グループごとに意見出し （２）全員で共有	✓話し合いのルールや付箋紙の書き方を説明する。 ✓地区の課題、特徴、冠水地点など、地区について知っていることや感じていることを付箋紙に記載し、意見を出し合う。 ✓**意見は、「資源」や「課題」に分類し、模造紙に分類ごとに分けて貼り付け（下記参照）**、白地図等に資源の名称等を記入し、その位置に印をつける。 ✓各グループが意見を発表し、全員で共有する。 ［**ポイント**］ ・人の意見は最後まで聞き、否定しないこと。 ・１つの意見を１枚の付箋紙に簡潔に記載する。
約５分	５　閉会 （１）次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

■ワークショップでの意見の整理表（記入例）

地区の強いところ	地区の強みを生かす
・土地が高い ・防災士、看護師、土木業者がいる ・ご近所づきあいがある ・小中学校が近い	・専門職から対処方法を習得 ・避難訓練の実施 ・畑等を利用した一時避難場所の確保 ・事業所と災害時の協定を締結
地区の弱いところ	**脅威＝弱点×災害**
・近くに池や川がある ・道路が狭い ・平日昼間に支援する人がいない ・医療施設や商業施設がない	・池の決壊、河川の氾濫 ・道路が狭く、救助の支障となる ・災害時の住家の孤立 ・災害対応の人材不足

（会議次第）

■第２回　防災まち歩きの実施と防災マップの作成

1　目　標

●前回の話し合いで共有した地区の資源や課題等を現地で確認する。

●防災マップを作成し、地区の資源や課題を可視化する。

●優先して検討すべき事項を整理する。

2　資　料

●防災まち歩きのルートを記入した地図（前回のワークショップで「資源」や「課題」を書き込んだ白地図、または住宅地図を使用）、バインダー、デジタルカメラ（チェキ）、フィルム、メジャー、筆記用具

●ハザードマップ、カラーペン、付箋紙、丸シール（カラー）

3　プログラム

［司会：〇〇］

1　開会

2　前回の振り返り

3　防災まち歩き

4　防災マップの作成

・Ａグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Ｂグループ：・・・・

5　質疑応答

6　閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約５分	１　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ 前回整理した地区の強みや弱みを踏まえつつ、地区を歩いた時に気づいたことを参加者で発表し、課題を整理してもらいたい。 ［**ポイント**］ ✓災害時の映像や写真を見て、地区で災害が起きた場合のイメージを共有し、意識を高める。
約 10 分	２　前回の振り返り	前回の話し合いで出された主な意見を紹介
約 60 分	３　防災まち歩き （１）準備 （２）まち歩き （３）休憩	地区を歩きながら、グループごとに資源や危険箇所等をカメラで撮影し、地図に記録する。 ［**ポイント**］ ✓リーダー、撮影役、記録役、発見役等の役割を決める。
約 60 分 約 15 分	４　防災マップ作成 （１）グループで整理 （２）全員で共有	まち歩きで得られた情報（資源や危険箇所等）と写真を整理し、防災マップを作成する。 ■**資源（例）** 避難できそうな高い建物、公園や広場、避難するときに通行する道路、コンビニや店舗、企業や工場、防災倉庫、自動販売機、医院や薬局、ＡＥＤ設置場所、防火水槽、消火栓、ホース収納庫、ごみステーション、広報掲示板 ■**危険なもの（例）** 川、ため池、用水路、幅の狭い道路、冠水しやすい場所、ブロック塀、段差のある箇所 ■**その他** 地区の境界、過去に災害が発生した場所 ［**進め方**］ ✓気づいたことは、付箋紙に書く。 ✓各グループの意見を発表し、全員で共有する。
約５分	５　閉会 （１）次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第３回　活動体制の検討

1　目　標

●災害時の活動体制を検討する。

●災害時に優先して実施しなければならない防災活動を検討する。

●マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインを学ぶ。（53 ページ参照）

2　資　料

●防災活動を行うときの班構成と役割（72 ページ参照）

●災害時の防災活動例の一覧

●マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムラインの説明資料

3　プログラム

［司会：〇〇］

1　**開会**

2　**前回の振り返り**

3　**活動体制について**

4　**災害時に優先して実施しなければならない防災活動の検討**

・A グループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・B グループ：・・・・

5　**マイ・タイムラインについて**

6　**質疑応答**

7　**閉会**

（シナリオ）

時間	次第	内容
約５分	1　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ 地区の強みや弱みを踏まえ、どのような体制を構築すべきか、意見を出し合っていきたい。
約５分 約 10 分	2　前回の振り返り （１）説明 （２）意見交換	前回作成した防災マップについて、再度内容を確認し、意見交換を行う。 ［**ポイント**］ ✓必要に応じて追加や修正を行う。
約 10 分 約 20 分	3　活動体制について （１）説明 （２）意見出し	活動体制の班構成と役割の案を説明する。 ［**ポイント**］ ✓グループで意見交換を行い、気づいたことや意見を付箋紙に書く。
約 10 分 約 25 分 約 15 分	4　災害時に優先して実施しなければならない防災活動の検討 （１）説明 （２）意見出し （３）全体共有	優先して実施しなければならない防災活動について意見交換を行う。 **■共通事項（例）** ・情報の取得及び地区住民への伝達の方法 ・地区災害対策本部の立ち上げの基準（時期やメンバーの検討、連絡体制の整備） ・避難行動要支援者への対応 **■風水害（例）** ・安否確認、避難誘導 ・避難のタイミング（避難スイッチの検討） ・避難支援の対象者と支援者の抽出 ・連絡体制の整備 ・避難先や避難経路の検討 **■地震（例）** ・安否確認
約 10 分	5　マイ・タイムラインについて（宿題の説明）	マイ・タイムラインの意義と内容を説明し、次回までに作成するよう説明する（55 ページ参照）。
約５分	6　閉会 （１）次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第４回　タイムライン等の検討

１　目　標

●マイ・タイムラインを作成し、自分の動きを時系列で確認する。

●コミュニティ・タイムラインを作成し、地区の動きを時系列で確認する。

●水害時における各班の具体的な防災活動を検討する。

２　資　料

●説 明 資 料（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）

●ワークシート（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）

３　プログラム

［司会：〇〇］

１　開会

２　前回の振り返り

３　マイ・タイムラインと水害時における防災活動等の検討

・Ａグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Ｂグループ：・・・・

４　質疑応答

５　閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約５分	１　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ 前回検討した体制で、水害時における防災活動の具体的な内容や必要な準備などを検討していきたい。
約 10 分 約 10 分	２　前回の振り返り （１）説明 （２）意見交換	前回出た主な意見を紹介し、意見交換を行う。
約 15 分 約 50 分 約 20 分	３　マイ・タイムラインと水害時における防災活動等の検討 （１）マイ・タイムラインについて （２）意見出し （３）全員共有	前回の宿題（マイ・タイムライン）をグループ内で発表し、地区に合った具体的な防災活動とコミュニティ・タイムラインについて意見交換を行う。 **■各班の具体的な防災活動（例）** ［**総務班**］ ・全体調整、要配慮者の把握 ・被害・避難情報の集約、把握 ［**情報班**］ ・啓発、普及、情報発信 ・災害時の情報収集・伝達 ［**安否確認・避難誘導班**］ ・避難経路の点検や確認 ・災害時の安否確認・避難誘導 ［**物資班**］ ・機材の点検と整備 ・災害時の炊き出し、配食等 ［**福祉・衛生班**］ ・要配慮者の支援体制の整備 ・ゴミ処理、トイレ・防疫対策 ［**ポイント**］ ✓気づいたことは、付箋紙に書き、項目ごとに整理する。 ✓グループで意見交換を行い、全員で共有する。
約５分	４　閉会 （１）次回案内	次回のテーマをアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第５回　震災時における防災活動の検討

１　目　標

●揺れの大きさや被害想定など地震のリスクを学ぶ。

●震災時における具体的な防災活動を検討する。

２　資　料

●ハザードマップ（対象区域を拡大したものを用意）

●ワークシート（マイ・タイムライン、コミュニティ・タイムライン）

３　プログラム

［司会：〇〇］

１　開会

２　前回の振り返り

３　震災時における防災活動の検討

・Ａグループ：進行役：〇〇、記録役：〇〇、発表役：〇〇

・Ｂグループ：・・・・

４　質疑応答

５　閉会

（シナリオ）

時間	次第	内容
約５分	１　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ 今回は、震災時における防災活動の具体的な内容や必要な準備について、多くの意見を出し合っていきたい。
約 10 分 約 10 分	２　前回の振り返り （１）説明 （２）意見交換 （適宜実施）	前回出た主な意見を紹介し、必要に応じて意見交換を行う。
約 15 分 約 55 分 約 20 分	３　震災時における防災活動 （１）説明 （２）グループごとに意見出し （３）全体で共有	・ハザードマップを活用し、地区の「揺れの大きさ」「建物倒壊危険度」「液状化危険度」について説明する。 ・地区の具体的な防災活動について、意見交換を行う。 ［**ポイント**］ ✓気づいたことは、付箋紙に書き、項目ごとに整理する。 ✓グループで意見交換を行い、全員で共有する。
約５分	４　閉会 （１）次回案内	次回の日時等をアナウンス
	中心メンバーによる打合せ	振り返り、次回の確認

（会議次第）

■第６回　地区防災計画（素案）の説明

１　目　標

検討経過を説明し、地区防災計画の内容について理解を深めてもらう。

２　資　料

地区防災計画（素案）

３　プログラム

［司会：○○］

１　開会

２　これまでの検討について

３　地区防災計画（素案）と防災マップについて

４　今後の防災活動を見据えた企画等の検討

・Ａグループ：進行役：○○、記録役：○○、発表役：○○

・Ｂグループ：・・・・

５　質疑応答

６　閉会

（プログラム）

時間	次第	内容
約５分	１　開会 （１）挨拶 （２）次第の確認	［**挨拶の例**］ これまでの取組を整理し、地区の防災活動について文書に取りまとめた。今後、防災訓練等を通じて体制や活動を確認し、計画の実効性を高めていきたい。
約 10 分	２　これまでの検討について	これまでの検討経過を説明する。
約 30 分 約 20 分	３　地区防災計画（素案）と防災マップについて （１）地区防災計画（素案）と防災マップの説明 （２）意見交換	・災害時の映像を映すなど、災害への備えの必要性について意識を高めてもらう。 ・地区防災計画（素案）と防災マップを説明する。 ・地区防災計画（素案）や防災マップの内容や今後の防災活動の進め方について、意見交換を行う。 ※地区防災計画（素案）を市町村防災会議に提案していくことをアナウンス
約 45 分	４　今後の防災活動を見据えた企画等の検討 （１）防災レクリエーション （２）翌年度の活動計画について	［**ポイント**］ ✓今後の防災意識の意欲向上につながる企画等を提示する。 （１）災害への備えや防災活動の大切さを再認識するため、幅広い世代が楽しみながら防災について学ぶ防災レクリエーションなど（例：防災クイズ、避難所運営ゲーム等） （２）翌年度に取り組む防災活動とスケジュール、進め方の検討（防災訓練の内容に関する意見交換等）
約５分	５　閉会	
	終了	
	中心メンバーによる打合せ	・最終回と話し合いを通しての反省、感想 ・今後の進め方の確認

第３部

実践編
初動対応とタイムラインの検討

災害発生時の初動対応と災害時に取るべき防災行動を時系列に整理した防災行動計画「タイムライン」を検討します。

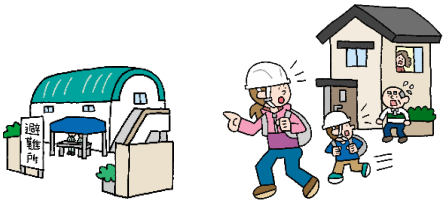
1　初動対応とタイムラインの検討

（１）初動対応について

災害発生の危険性が高まったとき、「避難すべきかどうか」や「具体的な避難方法」について、短い時間で判断するのは困難です。

迅速で円滑な避難行動ができるよう、自治会や町内会等の地域コミュニティにおいて、あらかじめ初動対応のルールを決めておきましょう。

区分	視点	検討項目	内容
役員会の開催基準	いつ	開催時期	気象情報等をもとに、どのタイミングで役員会を開催するかを決めておきましょう。
	誰が	出席者	事前に出席メンバーを決めておきましょう。
	どこで	開催場所	自治会の集会所や会長宅など、いざというときに集まりやすい場所を検討し、第１・２候補を決めておきましょう。
	何を	協議・判断事項	□避難の呼びかけ時期 □避難方法の周知と安否確認の方法 □避難行動要支援者の避難支援の確認 □避難所の運営従事者の確認　等
	どのように	伝達方法	会長が不在の場合に備え、組織規約等で代理を決めておきましょう。携帯電話への連絡のほか、スマートフォンを持っている場合、メッセンジャーアプリによる連絡も有効です。
避難の呼びかけ	どのように	伝達方法	［**伝達方法**］電話連絡、メール、メッセンジャーアプリ、FAX、自宅訪問等 ［**連絡体制**］活動体制や各班の役割を検討する中で決定 ※連絡が取れない場合の対応方法も要検討
	どこに	避難場所	在宅、知人宅、緊急避難場所、避難所 ※避難する時期やタイミングも考慮



（２）タイムラインについて

①タイムラインの検討

災害発生の危険性が高まったとき、「どのような備えや行動をすべきか」「どのタイミングで行動をすべきか」を気象情報や避難情報、河川水位情報等をもとに、時間の流れに沿って考えてみましょう。

このように災害時に取るべき防災行動を時系列に整理した防災行動計画を「**タイムライン**」と言います。

マイ・タイムライン

- **"自助"の観点から考える自身の防災行動計画**

コミュニティ・タイムライン

- **"共助"の観点から考える地区の防災行動計画**

＜台風発生・上陸／コミュニティ・タイムラインの検討内容例＞

３～５日前	・台風接近、台風の進路予測や気象情報を確認 ・影響のある河川流域の雨量を確認 ・備蓄品の確認や非常持出品の準備
２日前	・自治会役員の所在確認 ・役員会議の開催、地区災害対策本部や避難所の運営準備
高齢者等避難発令	・高齢者や障害のある方など、避難に時間のかかる方は避難開始 ・自宅外避難のための連絡調整、避難開始
避難指示発令	・危険な場所にいる方はその場から全員避難 ・安否確認及び避難誘導、地区災害対策本部へ連絡

②タイムラインの作成

タイムラインを作成し、災害時に取るべき防災行動を事前に理解しておくと、いざというときに、落ち着いて行動をとることが可能になります。

防災行動を検討する際は、地区特性（自然・災害・社会）と合わせ、「平時」「災害警戒時」「応急対策時」「復旧・復興時」におけるそれぞれの行動について考えてみましょう。可能であれば、「時間帯」「平日・休日」「季節」「経過時間」の視点で必要となる行動についても考えてみましょう。

地 区 特 性

自然特性
- 沿岸部
- 山沿い
- 内陸部
- 山間部
- 河川沿い　など

災害特性
- 大雨や台風（土砂災害、河川洪水、内水氾濫）
- 地震（津波、液状化等）

社会特性
- 人口（世帯数）・年齢構成
- 要配慮者の状況
- 地域コミュニティの状況

タイムライン

ア 平時 ▶ イ 災害警戒時 ▶ ウ 応急対策時 ▶ エ 復旧・復興時

＋

○時間帯

早朝 ▶ 朝 ▶ 昼 ▶ 夜 ▶ 深夜

○平日・休日

平日　または　休日・祝日

○季節

春 ▶ 夏 ▶ 秋 ▶ 冬

○経過時間

発災直後 ▶ 24 時間後 ▶ 48 時間後 ▶ 72 時間後

③各フェーズでの検討ポイント

ア　平時

災害時に起こりうる課題を想定して、日頃からどのような備えや取組をしておくべきか検討しましょう。

活動項目

●地域で暮らしている要配慮者の確認

●要配慮者のうち、自力で避難することが困難な高齢者や障害のある方等の避難行動要支援者の把握

□避難支援が必要な高齢者や障害のある方等を確認しましょう。

□民生委員等と協力して日頃から見守りや声かけを行い、要支援者の状況を把握しましょう。

●備蓄品の準備や防災倉庫の整備・管理

□防災訓練を通して定期的に点検し、必要に応じて補充や更新、整備をしましょう。

●災害時の協力要請

□市町村職員や学識経験者等の専門家のほか、防災士、消防団、各種地域団体、福祉施設、ボランティア等との連携・協力は大変重要です。

□地域の一員として、事業所も災害時に防災活動に協力していただけるよう、平時から話し合いに参画してもらいましょう。

●危険箇所の点検

□地域内で倒壊が懸念される建物やブロック塀、道路冠水等が予想される箇所など、危険箇所や避難時に支障になるものを点検しておきましょう。

●連絡体制の整備

□迅速で円滑な避難行動ができるよう、「いつ」「誰が」「誰に」「どこで」「何を」「どのように」という視点で、連絡方法や連絡順などを決めておきましょう。

●指定避難所や避難経路の確認

□防災マップで指定緊急避難場所や指定避難所、避難経路等を確認するとともに、実際に歩いて道路状況や所要時間等を確認しておきましょう。

□避難先が災害時に設備の故障で利用できないと慌てます。自分達が避難する場所がどのような環境か、設備の状況とあわせて確認しておきましょう。

●避難訓練の実施

□避難訓練を実施し、現在の組織体制や防災活動が問題がないかを確認しましょう。

イ　災害警戒時

最新の気象情報や避難情報等を収集・共有・伝達し、速やかに行動できるようシミュレーションしておくことが大切です。

活動項目

●情報収集、共有、伝達

□災害が発生し、または発生するおそれのある場合、市町村から避難情報が発令されます。事前に決めておいた連絡網で速やかに関係者に伝達し、情報共有をしましょう。

□避難行動要支援者に対しては、個別避難計画に基づき、速やかに避難情報等を伝達しましょう。

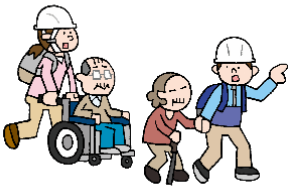
●状況把握

□自主防災組織等を中心に、事前に決めておいた連絡体制で声かけや安否確認を行いましょう。

□避難行動要支援者に対しては、日頃から見守りや声かけを行うとともに、避難訓練を実施し、素早く避難支援できる体制を整備しておきましょう。

●避難判断や避難行動

□平時に家族や地区で決めておいた避難経路や避難方法を確認して、避難の準備をしたり、危険と感じたら避難をはじめてください。



ウ　応急対策時

行政の支援や救助が届かない、または間に合わない状況では、共助による助け合いや自助が重要となります。

活動項目

●身の安全の確保、救助

□発災時は、共助による助け合いが重要となりますが、まずは、自分自身や家族の身の安全を確保しましょう。

□災害の被害状況によっては、電話が不通となることも想定されます。確実に安否確認できる方法を決めて、関係者で共有しておきましょう。

□人手が足りないときは、周囲に協力を求めるなどの対応を取りましょう。また、倒壊した建物や倒壊のおそれがある家屋に取り残された人の救助など、地区で対応が困難な場合は、二次被害を避けるためにも無理はせず、公的機関に救助要請を行いましょう。

●率先避難、避難誘導、避難支援

□個別避難計画に基づき、避難行動要支援者の避難支援を行いましょう。

□避難所へ行くだけが避難ではありません。ハザードマップで自宅周辺の災害リスク等を確認し、状況に応じて、在宅避難、親戚や知人宅への避難も検討しましょう。

●避難所の運営

□避難者はお客様ではありません。生活の場として避難者同士で連携・協力して避難所を運営しましょう。

●情報収集、情報提供

□避難者名簿を使って避難者の状況を把握しましょう。また、在宅避難や車中泊等の避難所外避難をしている方についても、必要な支援や物資等の要望を確認するとともに支援情報を提供しましょう。

■自治会等のコミュニティ・タイムラインの例

時間	気象情報	市町村情報	地区の対応（情報収集等）	家庭の対応（例）
3～5日前	台風情報（進路・勢力等）	注意の呼びかけ	今後の台風の進路情報の確認 役員会開催の決定 避難準備の呼びかけ（備蓄品や非常持出品の確保、連絡手段等）	今後の台風の進路情報の確認 常備薬の確保 家の周囲の安全確保 備蓄品や非常持出品の確保
2日前	台風情報（進路・勢力等） 大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報 高潮注意報	自主避難など注意の呼びかけ 避難所の開設準備 土のう準備	役員会の開催 避難喚起（早めの避難や親戚・知人宅への避難等）	携帯電話の予備電源の確保と充電 避難方法や移動手段等の決定
1日前	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報	高齢者等避難	●●●等による高齢者等避難の受信 避難の呼びかけ 高齢者等の避難支援 避難所の運営に協力	●●●等による高齢者等避難の受信 高齢者等は避難 その他の人は避難準備
半日前	土砂災害警戒情報 高潮警報	避難指示	●●●等による避難指示の受信 避難の呼びかけ 安否確認 避難誘導	●●●等による避難指示の受信 全員避難 避難完了
5時間前	氾濫危険情報		安否確認 避難誘導	全員避難
3時間前			安否確認 避難誘導	全員避難
0時間前	大雨特別警報 氾濫発生情報	緊急安全確保		直ちに安全確保（垂直避難等）

第４部

地区防災計画の様式と記入例

・計画作成のポイントを紹介しつつ、計画全体のイメージをつかみ、議論して文書化しやすくなるように、様式中に項目例や記入例を掲載しています。
・項目例や記入例のとおり作成する必要はありません。項目については地区に必要なものを選択してください。

表紙（記入例）

●●地区防災計画

＜写真・イラスト等＞

（例）・地区の風景写真

・地区を象徴するシンボル的なもの

・過去の災害の様子　等

令和　　年　　月　　日

●●地区自主防災組織

（■■自治会、△△地区まちづくり協議会など）

ポイント！

□防災も地域づくりの一つです。集会を利用して防災を話題にしてみよう！
自分達の暮らす地区をよりよくするためには、みんなで話し合いをすることが大切です。防災や福祉に携わる方をはじめ、幅広い世代の方々に参加してもらおう。

□それぞれの立場や視点から出される意見を尊重して取りまとめてみよう！
話し合いを通じて合意形成していくことが大切です。

□計画は一から作成する必要はないよ！
引き継がれている書き物があるときは、それをうまく活用してみよう。また、地区の現況や想定される災害リスクを確認しながら、「できていること」「できていないこと」を整理してみよう。

目次（記入例）

1　計画の基本方針　●ページ

2　対象範囲及び作成主体　●ページ

3　地区の概要
（１）地区の特性　●ページ
（２）予想される災害リスク　●ページ
（３）過去の災害例　●ページ

4　防災活動
（１）活動目標　●ページ
（２）活動体制（組織図や連絡網）　●ページ
（３）防災活動（平時・災害時）　●ページ
（４）●●●　●ページ

5　●●●　●ページ

ポイント！

□計画に盛り込む項目に決まりはないよ。どんどん意見を出してみよう！
「みんなに知っておいてほしい」「みんなで共有したい」といったことについて、地区で話し合い、その結果を少しずつ文書にまとめてみよう。

□最初からたくさんの項目を入れる必要はないよ。取り組むことができる項目や優先して取り組む必要がある項目から入れてみよう。入れなかった項目も計画の見直しの際に付け加えることができるよ！
最初から完璧を目指す必要はないよ。少しずつ項目を増やしてみよう。

基本方針（例）

１　計画の基本方針

○　発災直後は、県や市町村などの公的機関は、災害時特有の業務があるため、「公助」による迅速で十分な対応が望めない可能性があること。

○　災害時においては、自分の命は自分で守る「自助」とともに、自主防災組織やボランティア等を中心とした住民同士の助け合いによる「共助」が大切である。

○　災害を経験したところでは、「住民の声掛けで難を逃れた」「住民による被災者の救出で命が救われた」など、住民同士の助け合いで命をとりとめたという声がたくさんある。

○　日頃から、子どもから高齢者までが互いに支え合い、見守りを行いながら、「自分達の地区は自分達で守る」という心構えで、災害に強いまちづくりを進める。

○　災害時に迅速かつ確実な安否確認や避難誘導ができるよう、日頃から地区住民が参加する避難訓練を実施し、「この地区から死者を出さない」「けが人を限りなくゼロに近づける」ことを目指し、●●地区の防災力を強化する。

ポイント！

□基本方針は、自分達の防災活動の方向性を示す羅針盤だよ。
地区に適した方針を決めてみよう！

自分達が暮らしている地区が将来どのようになってほしいか、どのようにしていきたいか、みんなで話してみよう。

対象範囲及び作成主体（例）

２　対象範囲及び作成主体

（１）対象範囲

●●自治会や●●町内会、●●学区　等

●●地区防災計画は、次の地区を対象と定めます。

（●●年●●月●●日現在）

対象地区	世帯数	人口
■■■	▲▲▲	×××
■■■	▲▲▲	×××
■■■	▲▲▲	×××
合　計	▲▲▲	×××

（２）作成主体

団体名	所在地	連絡窓口
■■■	▲▲▲	ＴＥＬ：××× メール：・・・@・・・

地区の概要（例）

３　地区の概要

（１）地区の特性

○　地区人口のうち６５歳以上の高齢者が占める割合は●●％となっており、要配慮者対策がますます重要となっている。

○　●●川沿いに地区が形成されているため、●●川の水位が上昇したとき、内水氾濫がたびたび発生している。

○　平成●●年の台風●●号においても被害を受けたように、●●山の麓の集落は大半が土砂災害警戒区域に指定されており、土砂災害の危険性がある。

○　北部は丘陵地で南部は低地となっており、雨が降ると低地に向かって一気に雨水が流れるため、低地の水路や道路で越水や冠水が発生し、通行に支障を来たすことが課題である。

○　●●市のベッドタウンで昼夜の人口差が大きく、●●期に整備された団地は居住者の高齢化と施設の老朽化が課題である。

○　●●地区の南西部は宅地開発が進んでおり、子育て世代が流入し始めている。

○　道路が狭いため、災害発生時の緊急車両等の通行が困難になる可能性がある。

ポイント！

□地区の強みや弱みを整理すると、地区の特性が見えてくるよ。

「ヒト」、「モノ」、「環境」に着目して考えてみよう。

地区の概要（例）

３　地区の概要

（２）予想される災害リスク

近年、頻発する豪雨災害や、今後３０年以内に約７０～８０％の確率で発生すると言われているマグニチュード８～９クラスの規模の「南海トラフ巨大地震」等に備え、次のとおり対策を行います。

［風水害］

種別	被害想定	対策
風水害	・●●川の氾濫や堤防決壊による洪水 ・内水氾濫 ・●●地区の土砂災害 ・●●川の氾濫や●●地区の土砂災害により、県道●●●●線が通行止めとなる可能性がある	・ハザードマップによる危険箇所や災害リスクの把握 ・まち歩きの実施や防災マップの作成による避難経路、避難場所等の確認 ・停電や断水に備え、非常持出品や備蓄品の用意 ・テレビ、ラジオ、インターネット等による最新情報の入手及び確認 ・訓練の実施による避難行動や避難支援等の確認（避難行動要支援者に対しては、警戒レベル３「高齢者等避難」の発令で安否確認を開始）

地区の概要（例）

３　地区の概要

（２）予想される災害リスク

［地震］

【出典】岡山県地域防災計画

地震・断層名		マグニチュード	最大震度	主な市町村
断層型地震	長者ヶ原－芳井断層	7.4	6 強	倉敷市、笠岡市
	山崎断層帯	8.0	6 強	美作市、奈義町
	大立断層・田代峠－布江断層	7.2	6 強	真庭市、鏡野町
	那岐山断層帯	7.3	6 強	津山市、鏡野町、奈義町
	倉吉南方の推定断層	7.2	6 強	真庭市
	中央構造線断層帯	8.0	6 弱	岡山市、倉敷市、笠岡市
	鳥取県西部地震	7.3	6 強	新見市、真庭市
南海トラフ巨大地震		9.1	6 強	県内 27 市町村

［対策］

- ○　家具や家電の転倒・移動防止の実施
  （住宅の耐震化や地震保険加入も検討）
- ○　ハザードマップによる危険箇所や災害リスクの把握
- ○　防災まち歩きの実施や防災マップの作成による避難経路や避難場所等の確認
- ○　停電や断水に備え、非常持出品や備蓄品の用意
- ○　戸締まりや火の始末等の実施及び安全な経路での速やかな避難
- ○　テレビやラジオ、インターネット等による最新情報の入手

地区の概要（例）

３　地区の概要

（３）過去の災害例

名称及び発生年月日	当時の状況と被害の状況
平成30年7月豪雨災害（6月 28 日～7月8日）	○平成３０年７月豪雨は、７月３日から４日にかけて九州西方海上から対馬海峡を通り、日本海で温帯低気圧になった台風第７号の影響を受け、梅雨前線の活動が活発化し、複数の線状降水帯が発生し、広範囲かつ長期にわたる記録的な大雨になったことに加え、局地的な豪雨が同時多発的に発生し、西日本各地に平成最悪の豪雨とされる甚大な被害をもたらした。 ○特に７月５日から７日にかけての大雨により、岡山県においても初めてとなる特別警報が発表され、多くの観測地点で時間降水量の極値を記録するなど、甚大な水害・土砂災害が発生した。 ○８ヶ所に及ぶ堤防決壊による浸水被害が広範囲に及んだ倉敷市真備町を中心に県内の死者・行方不明者は 60 名を超え、平成に入って最大の被害となった。●●地区では、負傷者●人、半壊●棟、床上浸水●棟、床下浸水●棟の被害が生じた。
令和元年９月集中豪雨災害（９月３日～４日）	○９月３日夜に岡山県北部で局地的に猛烈な雨が降った。 ○新見市では３日午後６時 50 分までの１時間に 100 ミリ超の雨が降ったとして、「記録的短時間大雨情報」が発表された。また、同７時 10 分までの１時間に 120 ミリに達したとして、再度、「記録的短時間大雨情報」が発表された。 ○翌日、新見市を中心に住宅の浸水被害や土砂崩れが相次いで判明した。●●地区では、半壊●棟、床上浸水●棟、床下浸水●棟の被害が生じた。

ポイントのおさらい！

□ 防災も地域づくりの一つです。地区の集まりを利用して防災を話題にしてみよう！

✓ 自分達の暮らす地区をよりよくするためのポイントは、「話し合い」です。
防災や福祉に携わる方をはじめ、いろいろな役を担っている方に参加してもらいましょう。

□ それぞれの立場や視点から出される意見を大切にして取りまとめてみよう！

✓ 話し合いを通じて合意形成することが大切です。

□ 計画は一から作成する必要はないよ！

✓ 引き継がれている書き物があるときは、それをうまく活用してみましょう。
地区の現況や想定される災害リスクを確認しながら、「できていること」「できていないこと」を整理してみましょう。

□ 計画に盛り込む項目に決まりはないよ。どんどん意見を出してみよう！

✓ 「みんなに知っておいてほしい」「みんなで共有したい」といったことについて、みんなで話し合い、その結果を少しずつ文書にまとめてみましょう。

□ 最初からたくさんの項目を入れる必要はないよ！

✓ 最初から完璧を目指す必要はありません。
少しずつ項目を増やしていきましょう。

防災活動（例）

4　防災活動

（１）活動目標（例）

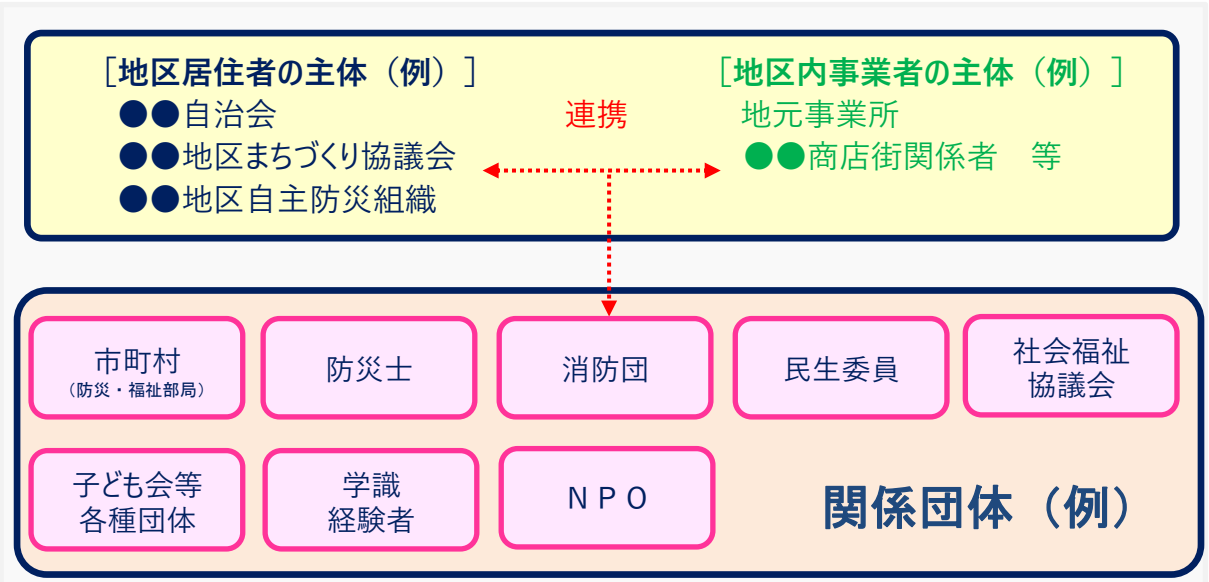
［短　期］

○　避難行動要支援者及び要配慮者の状況把握
○　地区独自の避難スイッチの検討及びタイムラインの作成
○　迅速な安否確認と避難誘導を行うための体制構築
○　防災に関する取組の情報発信（例：瓦版の作成、参加者の募集）

［中長期］

○　災害時における情報収集・伝達方法の確立
○　担い手の育成（例：防災士の資格取得）
○　感染症に配慮した避難所運営の検討及び訓練の実施
○　関係団体と連携した防災訓練の実施
○　地区防災計画の定期的な見直し

（２）活動体制（例）



防災活動（例）

4　防災活動

（３）自主防災組織の組織体制（例）

班名	役割（平時･災害時）
総務班	・全体調整、要配慮者の把握 ・被害・避難情報の集約、把握
情報班	・啓発、普及、情報発信 ・災害時の情報収集・伝達
安否確認・避難誘導班	・避難経路等の点検や確認 ・災害時の安否確認、避難誘導
物資班	・機材の点検と整備 ・災害時の炊き出し、配食等
福祉・衛生班	・要配慮者の支援体制の整備 ・ゴミ処理、トイレ・防疫対策
●●班	・●●●

会長

副会長

ポイント！

□地区に必要な役割や活動を検討して班を編成してみよう。上の図は例示です。必要に応じて班を分割･統合してください。

防災活動（例）

４　防災活動

（４）平時における防災活動スケジュール（例）

実施時期	・［上段］活動項目 ・［下段］具体的な内容
４月	**・役員会の開催** ・新年度の収支予算及び事業計画の提案
５月	**・防災知識の普及・啓発** ・防災研修会の開催（例：講話、災害リスクの把握と課題の整理）
６月	**・地区防災計画（素案）の作成開始** ・目標の設定、計画項目と優先順位の検討、年間スケジュールの作成
７月	**・地区の安全点検（危険箇所等の把握、避難経路等の確認）** ・防災まち歩きの開催、防災マップの作成（危険箇所等の反映）
８月	**・地区の安全点検** ・防災マップの仕上げ、印刷
９月	**・要配慮者の支援体制の検討** ・要配慮者の状況把握、支援方法の検討、緊急連絡網の作成
10月	**・避難行動の実効性の確保** ・独自の避難スイッチの検討とタイムラインの作成
11月	**・防災資機材の整備** ・防災活動に必要な資機材の購入検討
12月	**・地区防災計画（素案）の取りまとめ** ・必要に応じて追加項目等の検討
１月	
２月	**・避難訓練の実施** ・地区居住者や関係者を巻き込んだ避難訓練の実施
３月	**・地区防災計画（素案）の完成** ・防災活動の検証、計画の見直し

ポイント！

□上の表は、毎月活動を行う地区のスケジュール例です。地区の実情に合わせて、無理なく活動できる頻度や内容を検討してみよう。

９２ページのような進捗管理表を作成すると可視化でき、参加者で進捗状況を共有しやすくなるよ。

防災活動（例）

4　防災活動

（５）災害時における役割分担（例）

担当	活動	内容
会長 副会長 総務班 各班長	**役員の招集** **地区災害対策本部の設置**	・会長は役員を招集し、地区災害対策本部を立ち上げる。 ・本部は組織全体の動きを把握し、災害対応に必要な人員の投入や活動調整を行う。 ・地区防災対策本部の設置基準 ［地　震］震度６弱以上 ［風水害］警戒レベル４「避難指示」が見込まれる場合（警戒レベル３「高齢者等避難」の発令時点で招集）
会長 副会長 情報班	**情報収集・伝達**	・災害の発生、または発生するおそれのある場合、連絡網等を活用して地区住民に避難を呼びかける。 ・地区の被災状況を把握する。 ・市町村との事前の取り決めに基づき、地区の被災状況等を取りまとめ、市町村防災担当部局へ報告する。
安否確認・避難誘導班	**安否確認**	地区住民の安否確認を行う。
福祉・衛生班	**避難行動要支援者の避難支援**	個別避難計画に基づき、避難支援等実施者に連絡して、安否確認や避難支援を行う。
総務班 物資班 福祉・衛生班	**避難所の運営**	●●小学校に開設された避難所の運営を行う。 □感染症対策を実施の上、受付簿を設置し、避難者の受け入れを行う。 □避難者の状況を取りまとめる。 □避難者に困りごとがないか声かけを行う。 □炊き出しを行う。 □防犯対策のため、避難所内を巡回する。

防災活動（例）

4　防災活動

（６）中長期的な活動目標（例）

課題	内容	目標・達成時期
担い手の育成	防災士の資格取得研修に参加する。	●年度までに地区の防災士の資格取得者●人を目指す。
マイ・タイムラインの作成と普及	マイ・タイムラインの作成支援と普及を行う。	●年度までに各家庭の作成率●％を目指す。
感染症に配慮した避難所の運営	地域住民が主体となり、感染症に配慮した避難所の運営訓練を行う。	●年度までに地区での自主運営を目指す。
避難先の一層の確保	地区内にある資源の掘り起こしと施設等の利活用を検討する。 （例） ・避難に活用できそうな建物の所有者との協議や協定の締結等	●年度までに●施設の確保を目指す。
隣接地区との協力及び連携	・大規模災害が発生した場合、地区単独では対応しきれない事態も想定されるため、隣接地区との協力や連携を協議する。 ・隣接地区と合同で防災訓練を実施する。	●年度までに隣接地区と合同で防災訓練を実施する。

第５部

資料編
各種様式と参考資料

地区防災計画の付属様式と計画作成時の参考資料を掲載しています。

1　各種様式

■様式集

○コミュニティ・タイムライン（台風接近、前線停滞等の場合）

時間 （目安）	取得すべき情報	自治会役員等の役割例
３～５日前	□気象情報（台風接近、前線停滞等） □市町村からの情報	・緊急役員会議開催の決定 ・役員への連絡、役員集合 ・役割分担の確認
１～２日前	□気象情報（大雨・洪水注意報） □河川水位情報 □市町村からの情報	・関係者への声かけ ・地区災害対策本部の立ち上げ ・役割分担に基づく活動 ・自主避難の受け入れ ・避難所運営従事者の確認
１日前	□気象情報（大雨・洪水警報） □河川水位情報 □市町村からの情報	・避難の呼びかけ
半日前	□気象情報 □河川水位情報 □市町村からの情報	・避難状況の確認
０時間	★河川氾濫濫情報	・避難先での安否確認 ・避難していない人がいたら身の安全確保するよう呼びかけ

■様式集

○避難場所の案内文

小中学校や公民館は水害時の指定緊急避難場所となっておりますが、多くの住民が避難すると、密閉、密集、密接した環境となるため、感染症が発生する危険性があります。

避難先は小中学校や公民館だけではありません。安全な場所にある親戚や知人宅への避難も検討をお願いします。

また、下の地図にある建物等の管理者と協議して、緊急時には当該建物等に避難ができるようになりましたので、お知らせします。

［**地図添付欄**］水害時に一時避難できる場所を表示した地図

□避難が可能なビル（業務用ビル、ホテル、マンション、大型商業施設等）
　（例：○階　立体駐車場の一部スペース）

□在宅避難が可能なマンション

□指定緊急避難場所

□その他（　　）

※建物等の管理者と避難の受け入れについて、事前に了解が得られている。

※利用できる階数は、ハザードマップにより浸水深以上であることを確認すること。

■様式集

○初動対応の基準表

テーマ	判断基準	備考
緊急役員会の開催基準	①台風の接近及び上陸が予想されたら、接近・上陸予想の○日前に集合する。 ・集合場所：＿＿＿＿＿＿＿＿ ・参 加 者：＿＿＿＿＿＿＿＿ ②大雨により、 □□□□□警報が発表された場合、又は □□□□□の場合 ・集合場所：＿＿＿＿＿＿＿＿ ③開催決定者：会長（不在の場合、○○○） 連絡責任者：＿＿＿＿＿＿＿＿ 代理責任者：＿＿＿＿＿＿＿＿	テレビ、インターネットで台風情報や気象情報を確認すること。
避難準備の呼びかけ	□□□□□警報が発表された場合、又は □□□□□の場合 持出品や避難経路を確認するなど、避難準備の開始を地区の皆さんに伝達します。 ・伝達方法：＿＿＿＿＿＿＿＿	対象者に応じて避難準備の開始時期や伝達方法を検討すること。
避難開始の呼びかけ	市町村から警戒レベル○ □□□□□が発令された場合 ・避難に時間を要する方に対して、避難開始を伝達します。 ・高齢者や障害のある方など、自力での避難が困難な避難行動要支援者に対しては、作成した「個別避難計画」に基づき、支援者に避難支援の実施を呼びかけましょう。	

■様式集

○地区の行動指針

①避難方法

自治会や町内会の役員も含め、地区住民の避難支援を行うためには、まずは自分自身や家族の身の安全確保を最優先しましょう。

［**役員の避難方法**］

役職	氏名	避難方法・避難先
会　長		□在宅避難（垂直避難を含む） □水平避難 □自宅外へ避難　　（親戚、知人宅） □避難場所への避難（　　）
副会長		□在宅避難（垂直避難を含む） □水平避難 □自宅外へ避難　　（親戚、知人宅） □避難場所への避難（　　）
役員①		□在宅避難（垂直避難を含む） □水平避難 □自宅外へ避難　　（親戚、知人宅） □避難場所への避難（　　）
役員②		□在宅避難（垂直避難を含む） □水平避難 □自宅外へ避難　　（親戚、知人宅） □避難場所への避難（　　）

②みんなで決める

自治会や町内会の役員等で避難情報や気象情報、雨量・河川の水位情報等を確認・共有しながら避難判断を行う。

※災害時に慌てることなく、避難のタイミングや取るべき防災行動について、「いつ」「誰が」「何をするか」を平時に地区の関係者で話し合い、タイムラインを作成しておきましょう。

③早めの避難を呼びかける

避難情報や気象情報、雨量・河川の水位情報等を確認・共有しながら、住民に避難準備や早めの避難を呼びかける。

④安否確認

住民の安否確認や避難状況を確認する。

■様式集

○自主防災組織等の役員名簿

組織名：●●●

役職		氏名	住所	携帯電話 メールアドレス	備考
会　長				000-0000-0000 aaaaaa@aaaa.com	地区災害 対策本部長
副会長					地区災害 対策副本部長
総務班	班　長				
	副班長				
情報班	班　長				
	副班長				
安否確認・ 避難誘導班	班　長				
	副班長				
物資班	班　長				
	副班長				
福祉・衛生班	班　長				
	副班長				

■様式集

○防災活動に関する年間スケジュール

組織名：●●●

	自治会 スケジュール	防災活動 スケジュール	備考
4 月			
5 月			
6 月			
7 月			
8 月			
9 月			
10 月			
11 月			
12 月			
1 月			
2 月			
3 月			

■様式集

○防災活動に関する中長期的なスケジュール

組織名：●●●

年度	項目	内容	備考

■様式集

○防災資機材の保有リスト

組織名：●●●

区分	名称	規格	数量	保管場所	備考

■様式集

○緊急連絡先一覧表

組　織　名			
人　口　・ 世　帯　数	人　口：0,000 人 世帯数：0,000 世帯　（●●年●●月●●日現在）		
組織体制	地区名	役員名	電話番号
避　難　先	名　称	担当窓口	電話番号
所　在　地	防災マップのとおり		
緊　急　時 連　絡　先	分　野	関係団体	電話番号
	市町村（時間中）		
	市町村（時間外）		
	消　防		
	警　察		
	電力会社		
	ガ ス会社		
	水　道		
	電　話		
	ダ ム管理事務所		
	病　院		
	災害用伝言ダイヤル（録音）		
	災害用伝言ダイヤル（再生）		

2　参考資料

活動支援プログラム　①災害図上訓練（DIG）で防災力を高めよう！

Disaster（災害）Imagination（想像）Game（ゲーム）の頭文字を取って名づけられたもの。参加者は大きな地図を囲み、地域の想定災害や危険箇所、避難経路を地図上に書き込み、地域の災害に対する強さや弱さを知ることで、災害時の具体的な対応をイメージすることができます。地域で頼りになる方は？手助けが必要な方は？災害時に必要な行動を話し合ってみよう。

●準備するモノ

- ・地域の地図（Ａ０）
- ・付箋紙（大・中）
- ・丸シール（カラー）
- ・透明シート
- ・油性マジック（カラー）
- ・ベンジン（または液体消炎鎮痛剤）
- ・ハザードマップ

●地図への書き込み（例）

鉄道	黒色	道路	茶色
河川・水路等の水利施設	水色	医院・診療所	紫色
指定避難所	緑色	薬局	桃色
公園、神社仏閣	黄緑	緊急時に物資が購入できそうな店	
広い駐車場など			

●進め方

- □風水害や地震など災害の種別を決定し、被害状況をイメージする。
- □地図上に透明シートを載せる。
- □風水害の場合、ハザードマップを参考に、浸水範囲や土砂災害の危険箇所などを油性マジックで透明シートの上から地図に記入する。
- □書き間違えた場合は、ベンジン等を使って消し、書き直す。
- □参加者がそれぞれの自宅から避難ルートを記入し、避難経路を確認する。
- □「避難場所が安全か」「どのように確認するか」「正しい情報をどのように得るか」を話し合う。
- □話し合った内容を発表し、参加者で共有する。

ワンポイントアドバイス

▶透明シートの上に避難経路を書き込みます。倒壊のおそれのある建物等を回避できる避難経路を複数考えてみましょう。

▶近隣の住民同士の声かけが、避難行動を促す要因となります。

▶逃げ遅れないためには、何をすべきか、日頃から考えておきましょう。

活動支援プログラム　②防災マップを作ってみよう！

●準備するモノ

・地域の地図
（Ａ３・Ａ０）
・まち歩きチェックリスト
・カメラ
・筆記用具
・バインダー
・付箋紙（大・中）

●調べるチェックシート（例）

◎安全な場所
・指定避難所
・避難できそうな場所
・広い駐車場
・公園
・高台　など

★災害時に役立つ場所
・消火栓
・消火器
・防火水槽
・井戸
・消防機庫
・公衆電話
・防災倉庫
・病院
・薬局
・ホームセンター
・コンビニ
・スーパー
・掲示板
など

▼危険な場所
・狭い道
・行き止まり
・水路
・危険な斜面
・ブロック塀
・瓦屋根
・大きな看板　など

●進め方

□地図（Ａ３サイズ）を持ってまち歩きを行う。
□地域内の危険な場所や役立つモノを見つけ、地図に記入し、写真に撮る。
□まち歩き後、作業会場で見つけた公園や消火栓などを大きな地図（Ａ０サイズ）に記入する。
□道路や線路、用水路、ため池などを塗りつぶす。
□地図の周りに撮影した写真を貼る。

［ポイント］
✓防災の視点を持って、普段何気なく歩いている場所を歩くことにより、地域の強みや弱みを発見することができる。
✓災害時に役立つ商店や企業を見つけ、連携を図ることにつなげる。
✓災害時に力になってくれる人や手助けが必要な方などについても話し合う。

■凡例のピクトグラム例

凡例		指定避難所		公園		消火器	防	防災倉庫	掲	掲示板
		指定広域避難場所		病院		防災無線	×	危険箇所	交	交番
		避難できそうな場所・集会所		役に立つ施設		水路		危険区域		公衆電話
		空き地	消	消火栓		防火水槽	土	土嚢置き場	GS	ガソリンスタンド
		駐車場		ホース格納庫		消防機庫	ゴ	ゴミステーション		

ワンポイントアドバイス

▶実際の避難は、夜間や悪天候時になることがあります。
▶まち歩きでは、避難場所まで安全に歩いて行けるか、避難経路を確認しておきましょう。

活動支援プログラム　③ 避難所運営ゲーム（HUG）をやってみよう！

災害が発生すると、被災者の多くが、長期にわたり避難所で避難生活を送ることが想定されます。避難所運営ゲームは、Hinanjo（避難所） Unei（運営） Game（ゲーム）の頭文字を取って名づけられたものであり、みんなで避難所運営について考えるためのツールとして静岡県が開発したものです。

ＨＵＧは避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こるさまざまな出来事にどのように対応していくかを模擬体験するゲームです。

●準備するモノ

・ＨＵＧのカードセット
・小学校などの避難所の校舎と体育館の平面図
・油性マジック（カラー）
・付箋紙（大・中）
・ベンジン
（または液体消炎鎮痛剤）

●避難所運営ゲームの目的

・避難所運営を模擬体験することで、事前に何をすべきか、何を考えておくべきかを体験できます。
・緊急性のある事案について、短時間で判断し、処理する対応力を身につけます。
・関係者で合意形成する訓練となります。

●進め方

□カードを読み上げる人、進行役、書記、発表者を決めて始める（途中交代可）。
□カードは全部で２５０枚。世帯番号１から順番に読み、体育館と校舎の平面図にカードを配置していく。
□短時間で判断し、処理する対応力を身につけることを目的としているため、次々に避難者が来ることを想定し、スピード感を持って進める。
□さまざまな問題を抱えた避難者がやってくる。緊急性を求められることもある。
□カードの中に「イベントカード」が入っている。緊急性が求められる事案が次々と出てくるため、避難所運営本部としてさまざまな対応が求められる。
□トレイはどうするか、ペットはどうするかなど、判断に困ることも話し合いで対応を決める。

ワンポイントアドバイス

▶地域の避難所として活用する施設の図面を使って行うと臨場感が出ます。
▶受付や掲示板の位置、避難者カードなどについても話し合いましょう。
▶避難者の中には、高齢者など、配慮を必要とする方もいます。みんなにやさしい避難所を考えましょう。

■●●市●●地区　地区防災計画作成スケジュール

令和４年度

項　目	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
●●地区　部会											
第1回 講話、SWOT分析等		6/26									
第2回 【先行】まち歩き・防災マップ作成（●●町・●●1-3丁目）											
第3回 【先行】防災マップ発表（●●町・●●1-3丁目）、組織・連絡体制の構築依頼					9/4						
第4回 午前：連絡訓練、午後：訓練結果報告会							11/20	12/3			
第5回 地区毎の防災マップの発表								12/18			
第6回 計画骨子（案）の発表									1/22		
事業別スケジュール											
1　まち歩き・防災マップ実施計画											
1-1　実施内容、規模の決定											
1-2　会場下見・仮予約											
1-3　日程決定											
1-4　会場予約											
1-5　【先行】まち歩き・防災マップ作成（●●町・●●1-3丁目）											
参加依頼文（案）作成及び配布											
まち歩き・防災マップ作成実施											
1-6　参加依頼先（動員数の想定）との調整											
1-7　発表会への参加依頼文（案）作成及び配布											
1-8　資機材等の手配											
1-10　【先行】防災マップ発表会											
1-11　各地区でのまち歩き、防災マップ作成イベント											
1-12　各地区での防災マップ取りまとめ											
1-13　地区毎の防災マップの発表											
1-14　まち歩き（●●小学校）											
1-15　イベントと小学校結果の突合											

■日程調整
どちらか（●●地区役員及び●●先生の日程調整が必要）

■進め方
【先行】まち歩き・防災マップ作成の前に、7/5_打合せの際に疑義が出た内容について、整理が必要か？または、実施後、役員のみの部会を開催し、●●先生に防災マップの在り方を相談するか？

■進め方
防災マップ・組織作成以外に「地区タイムライン」、「地域の特性や災害リスク」などに●●先生をお呼びした部会の開催は必要か？

■7/5_打合せでの（まち歩き・防災マップ作成関係）疑義
・まち歩きと防災マップ作成は、防災意識向上へのとっかかりの部分として作成したい意見としっかりとした精度あるものを作成したい意見がある。
・防災意識の向上を目指すなら、水害、地震等の災害種別を絞らず作成するのか、水害と地震では、視点が異なるため、災害種別を絞ったほうがよいのか？
・古い建物や個人宅の塀が危険等の記載はしないなど、ルールづくりも必要？
・地区ごとで防災マップの精度に差が出ても問題ないか。地区住民が作成した防災マップを役員が、再度まち歩きをして補足しないといけないか。補足すると作成した地区と誤解を生じかねないか。

■進め方
・８月上旬に、先行して「●●町」、「●●１・２・３丁目」において、まち歩きと防災マップの作成
　※早朝からまち歩きを実施し、午前中に防災マップまで作成するスケジュール
・９月上旬の部会で防災マップを発表し、１０・１１月に各地区でまち歩きと防災マップの作成を行う（役員や防災士はファシリテーターとして参加）
・各地域へ地域での防災活動への取組の必要性を訴え、防災の組織づくりへつなげる
■狙い（先行して実施する）
・防災マップの作成の目的設定のための情報収集を行う

■●●市●●地区　地区防災計画作成スケジュール

令和４年度

項　目	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
2　組織・連絡体制の構築計画											
2-1　組織・連絡体制の研究											
2-2　組織・連絡体制（案）作成											
2-3　依頼文・報告様式（案）作成											
2-4　地区社協、町内会役員等への根回し											
2-5　組織・連絡体制図の作成依頼											
2-6　依頼文・報告様式の配布											
2-7　各地区での組織・連絡体制の構築											
2-8　避難連絡訓練の計画											
2-9　避難連絡訓練実施の周知											
2-10　避難連絡訓練の実準備											
2-11　避難連絡訓練の実施							午前	午前			
2-12　訓練実施結果の報告							午後	午後			
2-13　検証及び改善案の提示											
3　計画素案の作成											
3-1　計画骨子（案）											
3-2　基本方針											
3-3　地区の特性と予想される災害											
3-4　各町内の特徴、強み、弱み											
3-5　組織図											
3-6　緊急連絡網（電話、LINE等）											
3-7　地区タイムライン（簡易版）											
3-8　防災体制											
3-9　防災マップ											
3-10　避難場所候補リスト											
3-11　防災訓練											

■課題等
・地区社協、町内会等の既存組織があれば、準用するのが得策か。
・町内会により、役員改選の年数が異なる場合は、運用を統一するか、各町内会の運用に従うのか。
・メリット・デメリットを検証し、体制整備を行う。
・唐突に各地区へ組織・連絡体制の依頼をしても、うまく回らない地区が出ると考えられるため、９月初旬にまち歩きと防災マップ作成への参加を通じ、機運を高めてから依頼を行う。
・できれば、組織体制と連絡網を作成後、年内に避難連絡訓練を行い、検証後、次回からの改善案を提示できればベスト。

■目標
①組織・連絡体制の整備
　⇒　避難連絡訓練を実施し、整備した組織体制と連絡体制の検証を行う。
②地区の特性、強み、弱みを知る
　⇒　SWOT分析、まち歩きと防災マップの作成を通じて、地区の特徴と予想される災害リスクをまとめる。

■進め方
・「各町内会の特徴、強み、弱み」については、SWOT分析、部会及び小学校でのまち歩きの結果を反映
・「地区タイムライン」については、「地区の特性と予想される災害」と「防災マップ」から内容を検討し、新たに整備する緊急連絡網の運用を盛

地区防災計画の項目検討（主要地区の計画比較）

地区名		津山市城西地区（岡山県）	長野市長沼地区（長野県）	大洲市三善地区（愛媛県）	松山市高浜地区（愛媛県）	計画作成例（熊本県）	■■市■■地区（岡山県）		
策定主体		城西まちづくり協議会	長沼地区住民自治協議会	三善自治会、三善地区自主防災組織	高浜地区自主防災連合会	－	■■■協議会		
災害リスク		水害（内水氾濫を含む）、土砂災害、地震、暴風	河川氾濫、堤防決壊、浸水、液状化等	内水氾濫、土石流、地すべり	浸水（津波・豪雨）、高潮、土石流、がけ崩れ等	－	浸水想定区域（洪水・津波）、土砂災害警戒区域（急傾斜）、南海トラフ巨大地震　最大震度６弱想定		
							話し合いの結果（項目に・・・）	現在の状況（検討・作成状況）	
計画項目	基本方針	●	●	●	●	●	□入れる □入れない	□未	□済
	計画対象地区と避難所及び策定主体	●			●		□入れる □入れない	□未	□済
	地区の特性と予想される災害	●	●	●	●	●	□入れる □入れない	□未	□済
	各町内会の特徴、強み、弱み	●					□入れる □入れない	□未	□済
	組織図	●		●	●		□入れる □入れない	□未	□済
	緊急連絡網	●	●		●		□入れる □入れない	□未	□済
	災害対策配備フロー（タイムライン）	●					□入れる □入れない	□未	□済
	避難所運営マニュアル	●		●	●		□入れる □入れない	□未	□済
	防災体制	●	●	●	●	●	□入れる □入れない	□未	□済
	組織規約	●					□入れる □入れない	□未	□済
	防災マップ	●	●	●	●		□入れる □入れない	□未	□済
	防災資機材の確保、物資の備蓄	●	●	●	●	●	□入れる □入れない	□未	□済
	その他	○町内別受付簿 ○避難所入所者カード ○避難所全体図（西小学校） ○西小学校教室配置図 ○避難所配置想定図 ○見守り台帳	○地区災害対策本部設置基準 ○活動体制 ○防災関連施設・設備 ○自主防災訓練の実施 ○資機材の点検 ○災害に関する協定一覧 ○災害時広域的一時利用施設等 ○防災機関に求める対応措置 ○地区避難ルールブック（別冊）	○ハザードマップ ○災害危険箇所位置図 ○防災知識の普及・啓発 ○避難行動要支援者対策 ○防災訓練 ○人材育成 ○情報収集・伝達活動 ○避難誘導活動 ○避難行動要支援者の避難支援 ○救出・救護活動 ○出火防止・初期消火活動 ○避難所開設・運営 ○炊き出し等 ○活動目標と推進計画（５カ年）	○平常時の活動 ○発災直前の活動 ○災害時の活動 ○復旧・復興期の活動 ○市、消防団、各地域団体、ボランティア等との連携 ○防災訓練の実施・検証 ○防災意識の普及啓発 ○計画の見直し ○チェックリストの作成と検証 ○自治体、気象台からの避難情報 ○防災調査の基本事項 ○自然災害への対応策 ○災害時の情報収集 ○法令関係（災害対策基本法） ○防火水槽の取扱い ○避難所の開設・運営の手順、避難所配置図 ○防災カルテ ○防災チェックシート ○土砂災害警戒区域図	○活動目標 ○平時の防災活動（スケジュール） ○災害時の防災活動 ○中長期的に取り組む事項 ○ハザードマップの活用 ○危険箇所、防災設備、要配慮者の把握 ○避難所位置や避難経路 ○避難所リスト ○関係機関等連絡先リスト ○保有防災資機材リスト ○水害・地震版タイムライン	□入れる □入れない	□未	□済

災害が起きるとき　－風水害・土砂災害編－

集中豪雨や大雨が発生すると、洪水や土砂災害が起こる危険性が高まるため、注意が必要です。災害から命を守るため、気象台が発表する特別警報・警報・注意報や気象情報など、最新の防災気象情報の入手に努めましょう。

大雨になるおそれ 雨が降り出す

日頃から気象情報をチェック

食料や水の備蓄、非常持出品を揃えておきましょう。

・周囲より低い場所などは危険箇所
・災害に備え、家やその周辺を点検

注 意 報

雨が強くなると・・・

最新情報に注意し、避難に備えた行動を！
雨や風の影響を受けやすい地区や高齢者等は早めの避難を!

・気象情報や外の様子に注意
・非常持出品の準備や避難場所、避難経路を確認

警　　報

大雨が降り続くと・・・

自治体が発表する避難情報を確認し、必要に応じて速やかに避難！

災害リスクの高い場所に住んでいる方は、避難場所などの安全な所に避難しましょう。

特別警報

さらに激しい大雨が続くと・・・

ただちに命を守る行動を！
屋外避難が危険な場合は家の中で最も安全な場所に移動！

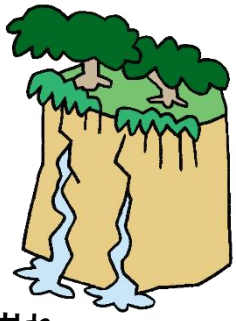
・危険な場所にいる方は、特別警報が発表される前に必ず避難してください！
・特別警報が発表されると屋外避難の方がかえって危険な場合があります。
・夜間や浸水の中での避難は非常に危険です。周囲の状況に応じて命を守るための最善の行動をとってください。

また、安全かつ迅速に避難をするためには、想定される災害の種類、土石流やがけ崩れの予兆現象も知っておきましょう。

■土砂災害･･･がけ崩れや地すべり、土石流など、集中豪雨や大雨が引き金となって、山や崖が崩れたり、土砂が流れこむ自然災害です。

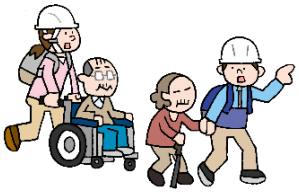
 かげ崩れ 大雨が降ったり、地震が発生した時に、地盤が緩んで突然崩れること。	 **地すべり** 緩やかな坂で粘土のように滑りやすい土に雨がしみ込んで地面が動くこと。	 **土石流** 長引く雨や台風の大雨で山や谷の地面の土や石が一気に流されること。

■災害発生の予兆

 **がけ崩れ** がけから水がしみ出してきたときは要注意。がけのひび割れも予兆です。	 **地すべり** 沢や井戸の水が濁ってきたときは注意。地面のひび割れやへこみも要注意です。	 **土石流** 雨が降り続いているのに水位が下がるときや山鳴りがしたら避難しましょう。

警戒レベルと避難情報（風水害の例）

警戒レベルは危険度に応じて５段階あり、市町村が発令する避難情報は警戒レベル３～５に該当します。また、気象台や岡山県が発表する防災気象情報も参考にしましょう。



警戒レベル	避難情報（市町村が発令）	防災気象情報（気象台や都道府県が発表）		住民が取るべき行動
5	緊急安全確保	氾濫発生情報	大雨特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
～＜警戒レベル４までに必ず避難！＞～				
4	避難指示	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	氾濫警戒情報	大雨警報 洪水警報	危険な場所から高齢者等は避難
2	－	氾濫注意情報	大雨注意報 洪水注意報	自らの避難行動を確認
1	－	－	早期注意情報	災害への心構えを高める

※１　警戒レベル５は市町村が災害の発生・切迫状況を確実に把握できるとは限らない等の理由から、必ず発令される情報ではありません。

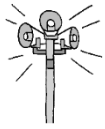
※２　警戒レベル３では、高齢者等以外の方も必要に応じて、普段の行動を控えたり、危険を感じたら自主的に避難してください。

※３　防災気象情報は一例です。

■避難するときのポイント

✓　災害が発生する可能性が高まったとき、市町村は避難情報を発令します。最新情報を入手し、冷静に判断して安全かつ迅速に避難しましょう。

✓　避難するときは、まず、自分自身や家族の身の安全を確保しましょう。高齢者や障害のある方などの要配慮者の支援に気を配る共助の姿勢も大切です。



■避難情報に注意し、避難行動を迅速に！

避難情報	警戒レベル３ 高齢者等避難	警戒レベル４ 避難指示
発令時の状況	・災害が発生するおそれがある状況	・災害が発生するおそれが高い状況
避難行動	・危険な場所にいる高齢者等の要配慮者は避難 ・その他の人は非常持出品の用意や家族等への連絡など、避難準備の開始や自主的に避難	・危険な場所にいる人はその場から全員避難 ・指定緊急避難場所や安全な場所へ移動する「立ち退き避難」（水平避難）が原則であるが、状況に応じて、屋内の安全な場所にとどまる「屋内安全確保」（垂直避難）も検討
避難先	・指定緊急避難場所だけでなく、親戚や知人宅への避難も可	

■避難するときは・・・

✓　自らの判断で避難行動をとるのが大原則です。自分の命は自分で守るという「自助」の意識で行動しましょう。

✓　災害の状況によっては、事前に確認しておいた指定緊急避難場所や避難経路が危険な場合もあります。冷静に判断し、臨機応変に行動しましょう。

✓　高齢者等避難や避難指示等の対象区域は目安です。対象外区域にいても身の危険を感じたら、安全な方法で避難しましょう。

避難行動判定フロー

■避難行動を事前にチェック　自分の命は自分で守る！

※ハザードマップは、浸水や土砂災害等が発生するおそれの高い区域を着色した市町村作成の地図です。
着色されていないところも災害が起こる可能性があることに留意

岡山防災マップ　検索

①ハザードマップで自宅を確認！
→　自宅のある場所に色が塗られている？

はい

危険！
原則、自宅外に避難が必要
［例外］
次の条件を満たせば、浸水の危険があっても自宅で安全確保する「在宅避難」も可
▶マンションの上階など、浸水する深さより高い場所にいる。
▶水や食料の備えが十分であり、水がひくまで我慢できる。

いいえ

色が塗られていなくても、**周りと比べて低い土地や崖のそば等に住んでいる方は、**市町村が発令する避難情報を参考に、必要に応じて避難してください。

②自分または一緒に避難する方が避難に時間がかかる？

はい

③身を寄せられる親戚や知人がいる？

はい

警戒レベル３「高齢者等避難」が発令されたら、高齢者や介助の必要がある方など、避難に時間がかかる方は、安全な親戚や知人宅に避難

いいえ

警戒レベル３「高齢者等避難」が発令されたら、高齢者や介助の必要がある方など、避難に時間がかかる方は、避難場所に避難

いいえ

③身を寄せられる親戚や知人がいる？

はい

警戒レベル４「避難指示」が発令されたら、全員、安全な親戚宅や知人宅に避難

いいえ

警戒レベル４「避難指示」が発令されたら、全員、避難場所に避難

防災情報の入手

災害時はいち早く正確な情報を入手することが大切です。
自治体の防災情報メールへの登録など、いざというときに必要な情報を取得できるよう、十分な備えをしましょう。

■テレビ

デジタルデータ放送（リモコンの「ｄ」ボタンを押す）からリアルタイムで情報を入手できます。

▶放送事業者：ＮＨＫ岡山
▶発 信 情 報：気象情報、河川水位や潮位等の観測情報、避難情報、土砂災害警戒情報など

■パソコン

○岡山県総合防災情報システム「おかやま防災ポータル」

県内の気象情報（注意報・警報、気象レーダー等）、雨量情報、土砂災害警戒情報、河川水位情報、河川カメラ情報等をリアルタイムで確認することができます。

▶検 索 サイト：岡山県　防災　検索　「おかやま防災ポータル」を選択
▶ＵＲＬ入力：https://www.bousai.pref.okayama.jp/

○岡山県防災マップ

洪水、土砂災害、地震による危険度情報や市町村のハザードマップ一覧を掲載しています。

▶ＵＲＬ入力：https://www.gis.pref.okayama.jp/bousai/

■携帯電話・スマートフォン

○岡山県総合防災情報システム「おかやま防災ポータル」

県内の気象情報（注意報・警報、気象レーダー等）、雨量情報、土砂災害警戒情報、河川水位情報、河川カメラ情報等をリアルタイムで確認することができます。

▶検 索 サイト：岡山県　防災　検索　「おかやま防災ポータル」を選択
▶ＵＲＬ入力：https://www.bousai.pref.okayama.jp/

○Yahoo！防災速報アプリ

アプリをインストールしておくと、緊急地震速報や豪雨予報をはじめ、さまざまな災害情報をプッシュ通知でいち早くお知らせします。

［iOS_Android 共通］

○X（旧ツイッター）岡山県防災@okayama_bousai

県内の災害、防災に関する情報などを発信します。

［フォローはこちらから］

用　語　集

き

○共助

自治会や町内会といった地域の人々などがお互いに助け合うこと。

○緊急安全確保

災害が発生、または切迫しており、居住者等が身の安全を確保するために避難場所等へ避難することがかえって危険であると考えられる状況において、いまだ危険な場所にいる居住者等に対し、ただちに命を守る行動をとるよう、市町村長が特に促したい場合、必要と認める地域の居住者等に対し、発令される避難情報であり、警戒レベル５に該当する。

こ

○公助

国、県、市町村、消防機関、都道府県警察、自衛隊等の公的機関による支援のこと。

○高齢者等避難

災害が発生するおそれがあり、災害リスクのある区域等の高齢者等が危険な場所から避難すべき状況において、市町村長から必要な地域の居住者等に対し、発令される避難情報であり、警戒レベル３に該当する。

高齢者等避難が発令された場合、高齢者等だけでなく、高齢者等以外の方も必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、避難の準備を始めたりするなど、危険を感じたら自主的に避難することが望ましい。

○個別避難計画

高齢者や障害のある方のうち、避難場所等に自力で避難することが困難な避難行動要支援者一人ひとりに応じて作成する避難支援のための計画。

さ

○災害図上訓練（DIG）

Disaster（災害）Imagination（想像）Game（ゲーム）の頭文字を取って名づけられたもの。大きな地図を参加者で囲み、地域の危険箇所や避難経路、防災関連施設などを地図に書き込み、災害に対する強みや弱み、対策等を議論することで、災害時の具体的な行動を検討するための訓練。

し

○自助

自らが災害に対する意識を高め、事前に備え、身を守ること。

す

○図上訓練

防災訓練のうち、現場での各種訓練行動等は行わず、ロールプレイング方式により、訓練者に一定の条件を付与することで応急対策業務の判断調整能力を高めるための訓練。

た

○タイムライン

災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目し、行動と主体を時系列に整理した防災行動計画。

（マイ・タイムライン）

住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風の接近による大雨で河川水位が上昇するときなどに、自分自身がとるべき防災行動を時系列に整理したもの。

ち

○地域コミュニティ

町内会や自治会など、一定の地域に居住し、生活地域や特定の目標、特定の趣味といった何らかの共通の属性及び仲間意識を持ち、相互に交流を行っている集団や団体を指す。

近年は、マンションの増加や転勤の増加等で町内会や自治会への加入者が減少し、地域コミュニティの範囲やその活動に変化が生じており、防災分野に関しては、マンションの居住者が独自の防災活動の計画を作成するケースもみられる。

○地域防災力

住民一人ひとりだけでなく、自主防災組織などの地域コミュニティや市町村といった様々な主体が連携・協働して取り組む地域の防災減災に向けた体制や能力をいう。

○地区防災計画

自分達の命と地区を守るため、地区の居住者の方々や事業所自身が、災害に対する備えと自発的な行動を検討し、みんなで共有しておきたい共通のルールや防災活動を紙や冊子にまとめたもの。

東日本大震災では、地震や津波により、市町村の行政機能が麻痺した一方で、地域住民による自助、地域コミュニティにおける共助が避難所運営等において重要な役割を果たし、その教訓を踏まえて平成 26 年に地区防災計画の制度が創設された。

は

○ハザードマップ

災害による被害を予測し、被害範囲を地図化したもので、予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲やその程度、避難経路、指定緊急避難場所、指定避難所等の情報を図示している。市町村が作成し、住民に配付したり、ホームページ等で公開している。

ひ

○避難行動要支援者

要配慮者のうち、自力での避難が困難であり、避難のために特に支援を必要とする方。略して要支援者と言う。

○避難指示

災害が発生するおそれが高く、災害リスクのある区域の居住者等が危険な場所から避難すべき状況において、市町村長から必要と認める地域の居住者等に対して発令される避難情報であり、警戒レベル４に該当する。

○避難所

（指定避難所）

災害の危険性があり、または、災害による家屋等の倒壊等で住み続けることが困難になった避難住民等を、災害の危険性がなくなるまでの必要な間、一時的に滞在させるための施設で市町村が指定する。避難者に対し、食料等の救援物資を提供する。

（指定福祉避難所）

高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児など一般の避難所では生活に支障を来す方を対象にした避難所。障害者用のトイレやスロープ、手すりの設置など、福祉的な配慮がなされた設備がある施設で市町村が指定する。高齢者福祉施設や障害者支援施設などが指定されることが多い。なお、指定福祉避難所は災害時に必ず開設されるとは限らない。

○避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）

避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こるさまざまな出来事にどのように対応していくかを模擬体験するゲーム。

避難所運営ゲームは、Ｈinanjo（避難所）Ｕnei（運営）Game（ゲーム）の頭文字を取って名づけられたものであり、みんなで避難所運営について考えるためのツールとして静岡県が開発した。

○避難場所
（指定緊急避難場所）

災害が発生し、または発生するおそれがある場合、生命の安全確保のため、緊急的かつ一時的に避難する場所や施設のこと（例：学校のグラウンドや公園等）。市町村が災害種別ごとに指定する（例：洪水や地震等）。

よ

○要配慮者

災害時の避難や避難生活において特に配慮を必要とする方。
（例）高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児、外国人等

わ

○ワークショップ

参加者が議論や意見交換を通じて解決策などをまとめていく取組であり、多くの関係者が参加し、自由に発言することにより、多様な意見を表出・集約できるというメリットがある。一方で、議論が拡散し、思うように進まないこともあるので、行政関係者、学識経験者等の専門家といった外部人材にファシリテーターとして参加してもらうことが有用である。

また、防災を検討する時には、災害図上訓練（DIG）を取り入れたワークショップが実施されることがある。

地区防災計画等についてもっとよく知る

地区防災計画等について、詳しく知りたい方へ！

［国関係］

■みんなでつくる地区防災計画（内閣府）

地区防災計画に関するイベント情報などが掲載されています。

みんなでつくる地区防災計画　　検索

■地区防災計画作成ガイドライン（内閣府）

地区居住者等が、地区防災計画について理解を深め、地区防災計画を実際に作成したり、計画提案を行ったりする際に活用できるように、制度の背景、計画の基本的な考え方、計画の内容、計画提案の手続、計画の実践と検証等について説明しています。

地区防災計画作成ガイドライン　検索

■地区防災計画の素案作成支援ガイド（内閣府）

地方公共団体の職員が、地区防災計画をより理解し、その実施の取組を支援できるよう、これまで職員から受けた地区防災計画に関する質問を踏まえ、職員が抱きやすい疑問等に答えるものです。

地区防災計画の素案作成支援ガイド　検索

■地区防災計画モデル地区の取組（内閣府）

地区防災計画制度を広く全国に展開させる観点から市町村と連携してコミュニティレベルで防災活動に取り組んでいる地区（モデル地区）を選定し、地区防災計画の作成や防災訓練等の支援に取り組んでいます。

地区防災計画モデル地区の取組　検索

■地区防災計画ライブラリー（内閣府）

地区防災計画の策定に向けた活動を促進するため、これから地区防災計画の策定を目指す方々や、既に策定された地区防災計画の更なる改善を目指す方々に向けて、地域別・テーマ別の地区防災計画や策定に向けたストーリーなどの資料を掲載したものです。

地区防災計画ライブラリー　検索

関心のある地域を日本地図からクリック

■マイ・タイムラインの作成（国土交通省中国地方整備局）

“逃げ遅れゼロ”の効果が期待される時系列の防災行動計画「マイ・タイムライン」の作成支援ツールや作成手順を掲載しています。

マイ・タイムライン　国土交通省中国地方整備局　検索

■ハザードマップポータルサイト～身の回りの災害リスクを調べる～（国土交通省）

防災に役立つ様々なリスク情報を１つの地図上に重ねて表示できる「重ねるハザードマップ」と、全国各市町村のハザードマップを検索できる「わがまちハザードマップ」を利用でき、防災に役立つ情報やハザードマップをより便利により簡単に活用できます。

ハザードマップポータルサイト　国土交通省　検索

［岡山県関係］

■岡山県地区防災計画等作成推進協議会（危機管理課）

平成 30 年 7 月豪雨災害の教訓を踏まえ、地域防災力の向上を図るため、地区防災計画及び個別避難計画の作成の推進を目的に「岡山県地区防災計画等作成推進協議会」を県と県内全市町村で設置し、これまでに県内 8 地区で地区防災計画作成の取組を支援してきました。

今後も、計画作成の過程やノウハウ等を共有することで全県的に広がるように取り組んでいきます。

岡山県地区防災計画等作成推進協議会　検索

■おかやま全県型統合ＧＩＳ（岡山県）

岡山県では、土砂災害警戒区域等の防災情報を地図データで公表しています。

例えば、土砂災害警戒区域等については、「おかやま全県統合型 GIS」→「防災情報」→「土砂災害警戒区域・特別警戒区域情報」から確認できます。

おかやま全県統合型ＧＩＳ　検索

■浸水想定区域図等（河川課ほか）

岡山県では、災害種別ごとに浸水等が想定される区域を示す浸水想定区域図等を作成し、公表しています。市町村は、この浸水想定区域図等をもとに避難に関する情報をとりまとめたハザードマップを公表しています。

●洪水による浸水の発生が想定される区域
洪水浸水想定区域図（岡山県河川課）

●土砂災害のおそれのある区域
土砂災害警戒区域等（岡山県防災砂防課）

●高潮による浸水が想定される区域
高潮浸水想定区域（岡山県防災砂防課）

●津波による浸水の発生が想定される区域
岡山県津波浸水想定について（岡山県危機管理課）

浸水想定区域図等　岡山県　検索

■岡山県防災マップ（危機管理課）

洪水、土砂災害、地震による危険度情報や市町村のハザードマップ一覧を掲載しています。

岡山県防災マップ　岡山県　検索

■おかやま防災ポータル（危機管理課）

県内の気象情報や雨量情報等をリアルタイムで調べることができます。

おかやま防災ポータル　検索

地区防災計画に関する市町村窓口

（令和５年３月現在）

No	市町村	担当部署	電話番号
1	岡山市	危機管理室	086-803-1082
2	倉敷市	防災推進課	086-426-3131
3	津山市	危機管理室	0868-32-2042
4	玉野市	危機管理課	0863-32-5560
5	笠岡市	危機管理課	0865-69-2222
6	井原市	危機管理課	0866-62-9550
7	総社市	危機管理室	0866-92-8599
8	高梁市	防災復興推進課	0866-21-0246
9	新見市	総務課危機管理室	0867-72-6205
10	備前市	危機管理課	0869-64-1809
11	瀬戸内市	危機管理課	0869-22-3904
12	赤磐市	くらし安全課	086-955-2650
13	真庭市	危機管理課	0867-42-1126
14	美作市	危機管理室	0868-72-1111
15	浅口市	くらし安全課	0865-44-9006
16	和気町	危機管理室	0869-93-1123
17	早島町	総務課	086-482-0611
18	里庄町	総務課	0865-64-3111
19	矢掛町	総務防災課	0866-82-1010
20	新庄村	総務企画課	0867-56-2626
21	鏡野町	くらし安全課	0868-54-2621
22	勝央町	総務部	0868-38-3111
23	奈義町	総務課	0868-36-4111
24	西粟倉村	総務企画課	0868-79-2111
25	久米南町	総務企画課	086-728-2111
26	美咲町	くらし安全課	0868-66-1112
27	吉備中央町	総務課	0866-54-1313

岡山県危機管理課

〒700-8570　岡山市北区内山下二丁目４番６号

ＴＥＬ：086-226-7562　ＦＡＸ：086-225-4559

作成日：令和６年３月